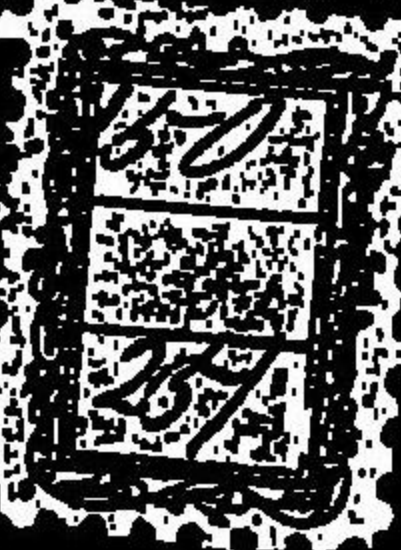


相濱時事漫評



出手道人
出放題

目録

● 金持諸君よ告ぐ東洋散士	● 金の爲め	● 横濱素人義太夫一口評	● 築港の不始末ハ幽靈
● 此著の性質を白状す	● 白川樂翁の箴	● 大塚成吉君を訪ふ	● 分制復舊事務所
● 相馬事件果して如何	● 諸佛の通戒	● 大谷嘉兵衛氏の談話	● 築港益不始末
● 日本人の無節操	● 横濱貿易商組合ニ除名す	● 伊藤仁太郎君來らる	● 生糸賣買の惡弊
● 外國貴賓と日本巡査	● 一ノ瀬勇三郎君	● 酒井芳兵衛君來らる	● 京濱娘の風俗
● 耶蘇教漢の無禮ヲ付て	● 渡邊福三郎君	● 雨山翁の妙言	● 横濱警察へ一本參る
● 市會議員の激昂ハ横濱市長の減給問題	● 樋口登久次郎君	● 木村乙吉君の脚氣談	● 金光教會の寒評
● 疾く一掃せよ此愛患	● 若尾幾造君	● 出版妄評	● 早く此義旗を横濱ニ翻せ
● 横濱演說會の惡弊	● 來栖壯兵衛君	● 横濱沿革誌	
● 市會議員よ覺となれ	● 黒部與入君	● 横濱貿易青年會々誌	
● 只漢々	● 皆川廣濟君	● 質問者答言	
● 警察官へ四寸五分を呈す	● 朝田又七君	● 伊藤仁太郎氏外目答言	
● 毛唐人の大無禮	● 小方君	● 書も涙の親兒の溥命	
● 横濱雇人受宿の劍突鉄砲	● 久松君	● 獄裏の厚薄ハ偉人の憤慨	
● 函嶺の旅	● いろはは君	● 横濱地價上騰の原因	
● 此巡査	● 大泉のどもえ君	● 横濱貿易商紛議尙擾々	
● 孝行和讃	● 小吉君	● 驚くべき官吏の賣國奴	
● 姥捨山の逸事	● 小とく君	● 眞金町妓樓の不埒	
	● ベ吉君	● 憎むべき碧眼奴	
		● 毛唐人の無情極る事	

○ 出放題

千草道人記



● 金持諸君に告ぐ 東洋散士

金融ハ今や最も緩慢の時なり、事業を起さんには最も適當の時機なり、金持諸君ハ何を苦心引込思案を以て徒らに公債や株券を買ふのみに心を傾け、進んで大工業大商業を起さんとせざる、何ぞ我國内に在る金銀を取ることのみ謀りて、外國と競争することを懸念せざるや、

● 意外の富金を拂はざるべからず、又外國より我國の品物を注文するに、従前の四五割なる安直を以て買ひ得べき勘定となり、然れども、直に内地の需用に適せざれば、品多かりしハ人の知る所なり、之を例にば、帽子の如き各種草の如き紅茶の如き印刷肉の如き我國に於て製造する品にして外國品に劣らざるなり、然れども其の元價ハ却て舶來品より高き、故に購買者ハ之を買はずして安き方の外來品を買ふの傾ありしなり、是等の品にハ今や輸入品の相場騰貴したるに際し、内國に於て之よりも安く製出するを得ば製造者ハ從來と異なりて充分なる利益を得べく乍ち此の輸入品を防ぐを得べきなり、況んや内國の金利尤も安き時に於てをや、諸君決して憂ふる勿れ此金銀の相場の差ハ一朝一夕の變動にあらずして、銀の産出の積蓄せるより生じたる結果なれば再び復舊するとなきなり

● 金銀の差の生じたるより我國の品ハ金貨國の品より安價に當るを以て、

出放題

外國より續々注文あるべく、輸出品の額ハ必ず増加すべし、是尤も喜ぶべきことなり、從來の製造品も益々力を盡して製出に勉強すべし、然るに聞く所に依れば製産家に於て外國の資本を借受け、或ハ名義のみ我國人の名を用ひて、其製造より生ずる利益ハ實際悉く外人の手に落る者ある由、果して然らば何程利益多き工業なりとも其利益ハ毫も國益とハならざるなり、輸出入表の面のみハ立派に見ゆるとも其利益が矢張外人の手に落るをすれば甚以て詰らぬと云ふべし

● 金持諸君ハ宜く此等の工業者を案めて之に安利の金を貸付くべし、外國人の已に用立てたる金利ハ安かりしこと事實なりと雖も、今の金融緩慢の時に當てハ、外國人に匹敵する位の金利にて貸出すとも、決して引合ハぬとハなるべきなり、諸君にして報國の義氣あらば他に猶利益あるの業あるとも、之を措て先づ之に貸すべく、其工業者も亦義氣あらば、同額若くハ稍々割合高くとも、外國人の金を借るべきなり、

● 我國が起すべき事業ハ工業に尤多く、而して商業にハ唯一つなれども而れども大なる一事業あり、即ち直輸出是なり、我國人ハ保守の僻強くして進取の氣象に乏しきにや、外國に店舗を設け、若くハ船を外國に出して貿易に従事せんとする者極めて少し、出交易の利益ハ蒙古南洋波斯土耳其南米等未だ手の入らざる國にハ勿論、從來商買取引ある國々にも外人の手を經ずして、新たに我が手にて行ふこともならば、其利益の差ハ諸人費を引て猶四五割あるべし、我國現今の有様ハ西洋人ハ勿論、魯鈍と譽る支那人ハ商買の全權を握られ、安く買ひ得べき品も彼等の爲に利益を壟斷せられ、高く賣り得べき品ありても彼等の爲に過半の頭を張らるるに非ずや、彼等ハ一ハ肉を食ひ毛を衣るの高等なる生活をなし、一ハ得たる金ハ決して手を離さざるの差ひこそあれ彼等が是等の金を得る方便ハ其の割合善き商買よりするのみ

● 若し我が商人にして倫敦巴里香港紐育に幾多の支店を開き居る者ならば

明治廿六年九月廿五日印刷
同 年九月廿九日出版

● 發行所 千草園雜誌社
横濱市野毛町二丁目
四十五番地

● 發行所 横濱活版舎
横濱市長者町九丁目
九十二番地

● 印刷所 水口甚兵衛

外國の市場物價は直ちに我國に報せらるべく機微なる掛引も心の儘なるべし、我國の工業家にして悉く自國の資本を以て成立つ者ならば外國にて運かに我が製品の騰貴ある時の如き悉く其利益を己に占め得べし、見よ我國に在留して發達する洋人の其資本を何處より得るぞ、皆我國人と貿易して得る所なり、之を貿易する我國人の彼等程の發達をなす能はず、之を以て之を觀れば、萬般の貿易は悉く六七分の利益を彼に占られ我國人の僅かに三四分の利益を得るに止るを知るべし、然るに外見を飾る我國人の此三四分の利を以てマニラの煙草を喫し佛蘭西の葡萄酒を飲み洋服洋帽にて花装を飾り身上の不如意を嘆ずる者少からず、少き利益を以て不相應の驕りをなす、其驕り品を買ふが爲に、亦金銀を外國に取らるゝ事多し、豈國の損にあらざるや、

今世に輸出税全廢論を以て、我國の製成品に税を掛ることを廢めんを力むる人あり、日本にては各般の製造品其輸出高を増さんと欲して、概ね其輸出税を廢したり、今にして猶稅ある者ハ生糸其他著しからざる僅少の品々に止れり、生糸の實に輸出品中最著き品にして、之に課する稅の存廢ハ實に國家の大問題なり、政府が其輸出税を課して細にのみ輸出税を免せしむ、粗製品の濫出を禁じて、輸出品の成るべく、内國にて努力を加へたる後輸出せんとするの主意なるや明なり、然り努力の貸銀ハ日本にてハ外國より甚だ安きとされば、此安き物を高き外國に賣るハ極めて利益多き業なるべし、

然れども生糸は他に競争者あり著しきものハ佛國伊國なり、故に論者ハ以爲らく、我國にて生糸に輸出税を課すれば、外國市場にての價必す其稅額だけの増加を見るべく之を廢すれば、其額だけの減少をなすべし、其價を減じて競争に勝たんとするの考案なり、然れども是少しく考へ物なり、一旦其稅を廢する時ハ、當地の外國人の都合よき故黙し悦び居るも、廢したる結果惡しとて政府亦是を取返す時ハ、苦情を申出でんこと必定なり、併し是道理上差支なきことなれば、強硬政略を以て之を論破するに



此普の性質を白狀す

千草道人

千草園の横濱學術雜誌の嚆矢なり、今ハ昔し明治二十年の秋天、野邊の山々麗らかみ、染め彩りし百花の候爛熳たる千草の色最と愛たくも咲き初むる時、突顯のれてより后幾星霜、投する處の寸言寸筆ハ只國家の安寧と同胞の幸福とを計るの念のみ、他は毫末の私心なく、他は分厘の慾情なく、直言直筆時事の善惡を解剖し時事の邪正を論斷し、良民を撫し奸族を挫き直事を贊し曲事を誅し、多少横濱市内の妖雲を抜いて明月を顯すの力ありしも、嘆ずべし頑々たる熱血迷るの筆鋒ハ幾回か其筋の御咎を蒙り、惡魔製筆の疫難を招き、幾回か死し幾回か生れ又幾回か我愛讀諸公の心膽を寒からしめたる事ありし、蓋し是れ元と覺悟の事決して驚ろくも足らず、取柄ハ出陣の后ハ家を忘れ身を

於てハ恐るゝに足らずとせん、是ハ恐るゝに足らずとせん、論者の謂ふ如く其結果として生糸の輸出額が増すべきや否、少しく疑ハしき點なしとせす、我商人が直輸出をなすに非れば、其結果益し思ふ様に行かざるべし、例へば伊國の生糸が倫敦に於て一個十磅四志我國の生糸其原價一個十磅、之に輸出税六志を加へて十磅六志なりとせんに、今一朝此輸出税を廢せば、倫敦に於ての我生糸の市價ハ直ちに十磅に下るべきか、若し我國の商人が倫敦に商店を有して直輸出をなさば、直ちに十磅となるべしと雖も、現今の如く、我國在留西洋人の手を経ることならば、彼等ハ倫敦に十磅四志又ハ五志に仕切りて、其の免稅より生ずる利益の、二志三志ハ從來より餘分に懐に入れたり倫敦の商人にハ容易に其利を分たざるべし、是實に成し易きことなれば、倫敦に於ての我生糸の市價ハ猶伊國系に勝つこと能はざるなり、若し我國の商人が斯る時に倫敦に居るならば、直ちに十磅の生糸を賣出して内地寄留の洋人を驚かし、併せて伊國系を壓倒し得べしと雖も、今の有様豈に慨嘆に堪ふべけんや、

治外法權も恢復すること必要なり、然れども稅權の恢復の急なるにハ若かず、而して其恢復をなさんとて口に議論を唱ふるよりも、機微なる行ひをなして、實際上商業上の競争を試みば、國の富ハ必しも今日の如く外人に吸取らるゝ患なかるべし、我が國決して金持に乏しからず、諸君ハ銀行を起し金を貸付けて同胞より少額の錢を得るよりも、大なる船を買ひ大なる支店を外國に開いて愉快なる商業をなすの計とせよ、倫敦巴里に真正の日本品を陳列し、至當なる價に賣捌きて、在留者壓斷の弊を排除し、或ハ未開の土地に至りて小刀一挺ハンケチ一枚に半一疋椰子一箱を交易し來りて意外の利益を得るの愉快ハ諸君も益し想像し給ふべし、其快も錢を損すと云へば驚愕すべけれど、今の金融緩慢なる時世に於て行へば利益と愉快併せ得らるゝこと蓋も疑ひを容れざる所なり、

忘れ豫て討死を覺悟するハ勇士の常なり、國家の爲め同胞の爲め筆劔を抜いて社界萬座の巷ハ切入るの后ハ家を忘れ身を忘れ豫て討死を覺悟するハ筆者の任、又決して驚ろくも足らず、本社の專買其廣告の一文ハ「いつも禁止覺悟の筆鋒」と、推て其精神のある處を知らん、惜むべし其論檀千草の花ハ轟然落ち來る雷電の爲め一時枯れ果てたるもの、如し、辱けなくも有情なる愛花の人、度々、早く咲けよ早く咲け、早く咲いて我が心神を爽ならしめよと云ひ越さる、記者ハ有難涙ハ咽びたり、余が暴言幾回か諸君を驚かしめたるの罪深きをも捨給わず、此有難き仰を給ふ事の喜び謝するも辭なし、酬ゆるも何を以てせん？噫人間萬事の塞翁が馬乎、善又善ハ非ず惡又惡ハ非ず、豈又何ぞ憂る事かある、頑々たる筆端遂ハ粉塵と迄碎け、爛熳たる千草遂ハ散々と迄揉れたる、此不幸ハ反て道人の幸福と化し、遂ハその狹隘なる學術部内を蟬脱して、自在に諸君を見ゆるの榮を得るの新工夫を得たり、噫快

哉、吁快哉、道人の正云わん尺獲の屈するの伸んが
爲め、千草の枯たるは咲んが爲めと、嗚呼實は昔日の
大狂瀾の途に我をして此愉快なる境涯に導きたり、愉
快……

斯く快絶なる筆墨の自由を天我と與るたる以上の積年
の鬱憤を晴らすの此時なりと、一判激烈に存分ヤツ付
ケ吳んか、險香く、或の風船を得て大海に没するの
禍を招くべし、調言寓語の愉快な手段、記者の務めて
温言を垂れ順筆を下すべし其温言順筆の味、又虎の如
く龍の如くんば快なり

素より不偏不黨なる以上、只眼中道理の一點なり、
去れバ道理の許す處の民黨の説も容るべく吏黨の論も
加ふべし、又道理の許さざる限り、吏黨の説民黨の
論と雖も容れざるを誓ふ、横濱の小分裂も尙然り、既
に眼中道理一點の外一物なき以上、之を反するとの
些事と雖も遠慮なく誅伐し、之に依る處の美事の毫髪
も茲に漏さざるを誓ひ、爾後著す處の書に則ち善惡邪

那邊は容れ歩を進めて、點々投せんか

是より先重禁錮と罰金の淵

險香く道人の其時、當らざる限りの此の淵に沈むを厭
ふ、増て辻易占の仮聲で鉄窓の裡に呻吟するも好まし
からねば、其鑑定に諸君の御勝手な任せ申さん、然し
自由新聞を壹萬兩の大金が飛込む世の中、石が流れて
木の葉が沈む間違つた時節ゆえ、鬼神も非ざる限りの容
易に其紅白を辨する能はざるべし、増て數年結ばれた
る御家騒動の鑑定をや、何が何やら一向に判らざるが
正直な處、然し衆目の見る處十指の指す處に果して何
れか敢て云はず東京諸新聞の筆鋒を糺せ
噫相馬家の如何なる宿業か、此開明の世の中、此
奇怪なる騒動を起したるか、余の實は同家の爲め悲
み、臣家の爲め悲み、貴族の爲め悲み、進で國家
の爲め悲むなり、嗚呼悲む可き騒動の因に何ぞ、曰
一夫多妻の弊なる乎

正の博覽會、善根惡果の植物園に供せんとす、去れバ
其陳列の多寡に從て轉迷開悟、矯風効能に關係せば、
賢明なる我が讀者諸君に敢て願わすとも充分探訪御加
勢あるとの必定、然し臂鉄砲の意趣返し犬の糞の敵打
道具に利用されるとの眞平く

爾後務めて一生懸命前線の精神を筆頭と捧けて以て、
眞闇横濱の新燈台となり善惡兩斷の正宗たらん事を期
す、蓋し我の他人の機械に非ず、我の黨派の器械に非
ず、故又一仙の保護なく一臂の助力なきも、時世の必
要、我を起して遂に此學に當らしむ、讀者義あらば我
を愛せ、讀者俠あらば我を助けよ、我が生死の實は只
愛讀諸君の手中に在り、

相馬事件果して如何

是を是と思へ、是を非と思へ、其曲直果し
て何よあるか、未だ公明の光なき闇黒世界に匿れて知
れず、今よして之を判断するの恰も辻易占の臆測のみ、
臆測も又一興と茲に道人が滿腔の熱血を吐て仮に啄を

元來貴族の柔順なるもの、無頓着なるもの、お人能き
もの、お心好なるもの多く水の如く飴の如く其爲に任す
るもの、故に是が方圓の多く家來其人の遺操と算段と
わらむ家來果して遣り線よく家來果して算段よかりせ
バ決て、襪縷を出さざるなり、蓋し家來の職任に御家
の無事と御家の長久を計るもの、去れバ御家は騒動の
起る、家來の責決て免る可きも非ず、家來の面目決て
全きものも非ず、但し相馬貴族の別派一流のものとし
て家來の職務他も存するものなれば格別な事、又降て
湧たる痕形もなき出來事とせば家來扶いとんだ御災
難と御愁傷を申のみ畏れ多くも我が 天皇陛下の早く
も此事件を聴こしめし時々御下聞あらせらるゝとの御
事、豈又畏れ多き事ならずや、斯く神慮を賜ませ奉り
し其淺からぬ罪惡の抑も那邊も存するか、余の未だ是
を知らず
噫天網の疎なりと雖も豈是を漏すべき、必ず近く此惡
漢を誅すべし、噫自然の漢なりと雖も豈是を包むべき

必ずや近く此善人を願し此悪人を誅すべし、見よ穢難たる此妖雲此怪霧も必ずや近く消散滅して黑白際然たるの天光を放ち決して永く吾人を闇黒の裡に置かざるべしと思ふなり

次は道人の深く此騷動の一刻も早く、鎮定し歸す事を願ふなり、然し十有餘年の長日月を渉るの紛雜事、一朝一夕の決定はあらざるべしと噂する向もあれど可成早急を願ふなり、此騷動一日を費せば一日は其評判を加え、其評判を加ふれば其間種々なる弊害を生ずればなり、今よして既に彼碧眼奴の此勝敗は金錢を賭すと傳ふ、今よして既に此騷動を彼れ是れして不徳の眞似をなす者ありとの風聞あれば、只々其黑白際然たるの秋を日一日と待遠く思ふなり

●日本人の無節操 米國フレッソン新聞

日本人の能く摸倣する人種なり、渠等が其執る所の政略を一變して世界文明の潮流に來るや、歐米の文物を摸倣する、其勢力實に驚く可きものありき、然れども

天下之を見て一人の非難する者なきのみならず、多くは却て其國風を維持せるを稱せり

日本人の恰も羅馬人の如し、米國と其風俗を習ふと同時又併せて其弊陋陋習を摸倣す、吾人の決して其可なるを見ざるなり、聞説く、日本の本國ある一部の人種は能く古來の儀式を守りて、正直は叮嚀、人々對して敬を失するが如き舉動の絶て之なしと、然るも米國に來れる日本人の、概して米國の好風俗を摸倣すると同時、更甚だ敷陋風を感染して、吾人をして轉た厭忌の情を起さしむる者なり、而して吾人の日本人の摸倣を諷れるを見て眞に氣の毒と堪えざるなり、と、夫れ見た事か西洋人の目も斯く見ゆるなるを無性な西洋熱に浮かされる人の馬鹿氣たる、彼れ碧眼奴も後ろ指をさされて、彼れ見よ東洋の猿猴めをど、口を極て罵詈せらるゝを恥ざるか、

口は神州の生靈なりと威張り、其行爲猿に似たる何事ぞ、況んや萬國人種を擯斥せらるゝ、彼の被廉耻

其勢力の餘り急激なるが爲め、又自らは伴ふ所の弊を生したり、

日本の古有の衣服を擲ちて、吾人の穿てる西洋服を着用したるが如き正さ其一例とすべし、抑も日本の姿勢の歐米人に異なり、決して吾人歐米人の如きもの非ざるなり、從て其服裝の如きも吾人の服の渠等の姿勢は適せざるなり、殊に其婦人は於て然りとす、且つ夫れ日本固有の女服の吾人歐米諸國の婦人は尊重せられ、其優美にして商品ある吾人の婦人すら尙且つ之を服せん事を冀うほどの者なり、然るも渠等日本婦人の無智なる猥り西洋各國のものを奪ひ、自國固有の美服を捨て、自己の身は適せざる服を着け、偶々以て其醜を表すに至る、嗚呼何ぞ其心の低くして且愚なるや、吾人の實に憫笑堪えざるなり、

翻つて彼の支那人を見よ、渠等の頑として自國の風俗を維持し、米國に來る者も雖も、絶て米國を摸倣する事なく、依然として支那人たるの風習を持す、而して

なる豚尾漢も劣ると迄の酷評を蒙るも、尙お氣が付かれざるか、噫とん腹太き日本婦人が蜂の如き西洋服を胸を絞つて目を廻したる滑稽や、喰馴もせぬ西洋料理を腹を下す馬鹿氣な眞似が、抑も日本男女の本色か實に痛嘆堪えざるなり、

●外國貴賓と日本巡查

遙々日本に來遊あそばされたる外國貴賓澳國皇妃殿下は、各勝地を御遊覽在る頗る御機嫌麗き由り承る、左すれば我國民の其歡迎の用意は過ちなく能く敬禮を盡し終りたるを喜ぶ、申も畏れ多き事ながら曩の露國皇太子殿下の御珍らしき御來遊に際し、湖南の狂客大無禮を働き、爲めと思わざる狂瀾怒濤を平地に起して折角の歡迎も水泡に歸したりき、此騷擾の因は僅々尺餘の右腕に由るも其驚報は實に五大州を洩つて隠れなき驚報となりぬ故に或は日本をして薄氣味悪き山海となし、他日國賓の往來に影響を及ぼしむせぬかとの、其當時深く國民の憂慮したる處、處る此

國寶の來遊ゆゑ道人の偏に其首尾能きを祈りしなり、
 祈りし甲斐正も効あり、其筋役人の注意行届き今日の
 好結果ありしは、實に國家の爲め欣喜堪ざるなり
 噫湖南も白刃を閃かして國寶を腦め奉りたる狂漢津田
 三藏の天其罪を許さず程なく北海の際處に於て病魔を
 殺されて籍を地獄に移したれども其汚名は今尚ほ消え
 ず其舉動は今尚ほ失せず、

聴く填國皇姪殿下の如何も思召すか日本巡査の服裝を
 嫌ひ給ふと、嫌ひ給ふが故に其護衛巡査の官服を纏ひ
 ず皆私服を用ひたりと云う、殿下の巡査正服を嫌ひ給
 うの何如なる思召よよるか余等の窺ひ知る可きも非
 ず、

兎も角殿下の御機嫌麗わしかりしに實に喜欣の至なり

●耶穌教徒の無禮一就て

耶穌教徒の大無禮は今始めぬ事、彼が眼中には基督
 の外なく、彼が腦漿はゴットの他なく、世に尊敬す
 べきものは只天帝是一ト、遂に國家的志を喪亡して、

噫彼れ邪教信徒の不將も無禮もも 神聖にして冒す
 可からざる 天皇陛下は對し奉りてすら尙斯の如し、

况や父母兄弟姉妹に對しての言行の夫れ如何ぞや、道
 人の斷言す、外教を信する者の國家を思ひざるものなら
 ん乎と若し國家の安寧と幸福を願ひ、決して左の文字を
 讀下し左の字義を服膺する能はず、余の實に筆にする
 さる尙嘔吐し堪ざるなり

「新約全書」馬太傳第十章、曰く、地も泰平を出さん
 が爲に我來れりと思ふと勿れ、泰平を出さんと非
 す刃を出さんが爲に來れり、夫れ我來りて人を其父
 ゝ背かせ娘を其母を背かせ娘を其姑を背かせんが爲
 ん、人の敵に其家の者なるべし我より父母を愛む者
 の我も協はざる者なり我より子娘を愛む者の我も協
 はざるものなり云々

と此命令に従ひ此遺言も靡く所の外教徒其者なれば、
 前二件の如き不敬事件の起る決て怪む足ざるなり、
 噫愛國の志士仁人讀んで以て如何なる感か起る、

昔の所謂國禁の邪教も熱中し、遂に狂亂して事茲に到
 るの、實に慨嘆し堪ざる事なり

去日神田美土代町同教會の演説は彼口沫を飛ばて曰く、
 諸君の天皇陛下の御通行の節は朝を脱ぎて敬禮を施
 されるで有りませう、天皇ですら其通り、況して世
 界唯一の大王ども唱へつべき吾神聖なる神に對して
 敬禮を致さぬもの御座りませうと

彼れ靴屋の軒も生れたる基督の説教も、畏れ多くも我
 天皇陛下を引例とし奉るの奇怪なる無禮なる、而て彼
 宗徒の平々坦々敢て憚色なきの不敬なる、人并々の人
 間なら決て此儘も非ざるなり

又鳥取市西町の耶穌會堂に於ては、武本なる奴畏れ多
 くも 天皇陛下の命令より従はずとするも、天帝の
 命令より従はざる可からず、

どの演説をなし、其他不敬の暴言少なからざるより聽
 衆の激昂一方ならず有志の遂に是を告發したりと「新
 教育」是陛下に對し奉る、彼邪教不敬事件の好一對手

●横濱市長の減給と、辭職勧告

渡邊福三郎氏と、千草道人

新聞の傳ふ「横濱市會議員の中より内務大臣が佐藤横
 濱市長以下減給を認可せざりし爲め激昂して此度市
 長へ辭職の勧告をせんとする者あり」と此記事果して
 實か、若し實なりとせば君は是れと與せらるものか、
 將た之を斥けらるものか、

道人の深く信す君の敏捷なる君の英達なる必ず此類の
 入るも非ずして、必ず之を斥け之を愛ひ之を悲み給わ
 んと信すれども

愚考するも元と市長以下減給の決議を認可せざりし
 内務大臣のする所として佐藤市長の與り知る所も非ざ
 るの勿論なり然るを内務大臣が認可せざりしとて、其
 激波布て佐藤市長も及ぼし遂に辭職勧告の沙汰迄及
 びたりとせば實に見當違ひの横鉄砲と云わずして何ぞ
 堂々たる市會議員諸君も此見當違ひの有ざるべしと
 思うが如何

又佐藤市長は辭職を勧告すべき過失ありと思ふか、道人の未だ其失を聽かざるなり若し辭職を勧めねばならぬ過失ありとせば疾く是を公議と訴て而て后茲に至るが順序ならむ豈黙々無聲の裡より突然茲に到るの理ありべきと思ふが如何

道人の不偏不黨獨無派の人間として別は佐藤市長を加護するの縁なきも氏の頗る柔順なる人として市長適當の人物なりと思ふ、又柔順ならずとするも今日迄の一點の過誤あらざる限りを決て不適當の人物といひ難からむ此罪なきの市長を斥んどの抑も如何なる譯によるか

人或云う佐藤市長の商人派の推撰して就任したる人なり、今の市會の地主派の専有と歸したるが如し故に此沙汰及びびたるならんと、果して然るか否か余は決て是を信ぜざるなり何となれば市長の市民に對するの市長として、市會議員のみ對するの市長と非ざればなり故に市民に於て此市長を喜び此市長を信ず

野毛町二丁目

千草園雜誌社

千草道人

壯士に非ざる

市會議長の椅子に非ざる

渡邊福三郎

と問合たるより來る右の返答

御書面拜誦、横濱市會議員中より此度市長辭職勧告をせんとする者ありと或る新聞紙上の記事の果して實か若し實なりとせば君の是と與みせらるゝものか將た之を斥けらるゝものか云々御尋の義を付て小生未だ其事實あるを認めざるは依り從て是と與みするも與みせざるもなき事と御座候其他の右よて御推知有之度此旨及御答候也

八月二十四日

吉永良延様

渡邊福三郎

御而倒を厭わせられず斯く貴答を煩したるを謝す、果して此御返答の如くならば、新聞紙の記事は無實無根の事、無實無根の事ならば必ず其取消ありしならむ、而て道人か此質問の實と新聞紙の記事のみならず市内

るも拘わらず之を動かさんとするの實は不當の事たるが如し況んや其職務上毫も不都合なき人物をや議員は市民の代理者として、其黨派の代理者より非ず、去れば其眼中只市民の安寧幸福在て、黨派の就念敵味方の厚薄非ざる事勿論なり、果して然らば此市長の進退も又市民の意向に従うべきが當然なり、市民誰か此市長を黜げんとせしものありしか、余是を知らず然るも議員中此噂ありとせば其理由とんと解する能ざる所、増て黨派の爲め此沙汰及びびたりとの噂を聞くと至つての實は奇怪と思ふなり

又仮に市長其人が大過失ある在て退職せしめんとならば何が爲め減給問題先て之を叩かざる、減給が成らずとて突然急變して不信認となる譯も非ざるべしと思ふが如何
右の市民の疑惑を感じる所と思料候儘御意見相伺度少々都合有之候間早急何分の御回答を願ふ所は御座候敬具

斯く其冤を雪く
疾く一掃せよ此憂患
露々此噂あるより出でたるなり、依て以て確し其實事非ざるを知りて大い議員諸君の爲め喜び又斯く其冤を雪く

露々存娼と廢娼の論議露々として高く、一時の屹然たる大問題と相成て、地方一二の縣會の議遂に廢娼と決し爲め其貨座敷の他も轉業したる程の勢、布て我横濱之も進入し來り既此廢案の縣會議場迄も立登り、爲め妓樓の頭痛は鉢巻東西も奔走し廻り、福井壯士の縣會議員を擲つて獄倉の元を呻吟するの騷擾を醸せしが、遂に果なくも廢娼の論鋒の折て、勢ひ存娼の勝鬪となりし、此存娼の兵強くして正に此勝利を博したるも、公娼の弊害則密賣淫の蜂起の毒風を來すべし、黴毒の蔓延の衛生の傷點なりとの論鋒と、次で熱の狂行、則徳行の紊亂の私通姦淫の毒風を來すべしとの説どが全く此金城鐵壁と相成て、爲め廢娼論客を打倒して依然眞金永樂の不夜城を存するに立至り

たるも拘りしらず、其愛うべき密賣淫の照燈影暗き處
 續々として群がり、近時の恰も公娼同然の行爲在に至
 つて、余の只は是を黙々し付する能はざるのみなら
 ず、我が兄弟の爲め進て其撲滅策を講究し、大いに警
 察を訴ふる所あるも、怒る勿れ彼れ地獄嬢、恨む勿れ
 彼れ白頭鬼、余の敢て汝を惡む非ず寧ろ其心憤り怒
 めども、所謂小の虫を殺すも大の虫を助けんが爲め、
 既に此密賣淫の弊害の廢娼論の打負たる事實は依こ明
 白なり果して是れ社界の害毒なりとせば警官の嚴然是
 が驅除撲滅の旗を擧ざる可からず、人曰横濱警察充
 分是も着眼し大いに盡す處ありと、成る程續々彼白
 鬼を驅立てらるゝ事實の吾人知らざるも非ず、敢て喜
 ばざるも非ず、陰に其奔走の御盡力を欣べ其彼白鬼尙
 ほ八方の巢窟を構え未だ全く消失せずして在る間未だ
 陽然手を擧て其勞を謝する能はざるを憾む、仰ぎ願わ
 くば尙一步を進て、全く彼を撲滅して以て吾人充分
 なる満足と與え給え

出すると尙は鏡も懸て賭る如し、況て横濱の全國の關
 門なれば、遂に進でフガク人種の輸出元と相成やも
 知る可からず、日本の布哇國餘り嬉しき名前でなし、
 フガク人種の製造元尙感心仕らず、某醫伯語る「横
 濱の醫者の類は多く蠱毒の爲め釣ると」今よして尙
 此言あり、若し此病源たる此白鬼を平けずんば他日の
 慘狀夫れ如何ぞや、當局諸公若此深意を酌給へ疾
 く一鞭を加えて可なり

●横濱演說會の惡弊

世流の濁りて其惡弊の布て貴重なる政談演說會迄及
 ぶ、法螺を吹く、獨り館屋も非ず、人を欺す、獨り女
 郎も非ず、堂々たる正邪を輿論を訴ふるの演說會又法
 螺を吹き人を欺すに至る曰く某來る、曰何時より開く、
 曰く何々を演ずと、表然世間を弘告し、安からぬ傍聽
 料を取り置乍ら、其實目指す名辨士來らず、弘告時間
 過るも開かず聽衆待詫て欠伸督促も空壇拍手を促すも
 恬然たるの行爲あるは是を演說會の惡弊と云わずして

聞説く、近頃彼賣淫の其捕手を恐れてか、夜間其業を
 營むを止めて、恥かしくもなく白中此業を營むと實も
 公娼も異ならずと、彼も餘程究したるもの相違なし此
 策を執を見れば、蓋し其賣婦の發生は就て別は精細
 なる困難を摘發し置けば尙喋々の要なきも茲は怪む可
 き上等地獄と稱する者一見處女風權妻風藝者風の怪
 物なり、或は素人家の二階又待合の與座敷等にて此事
 も及ぶものなり、其害又同一の鬼なれば是又一時押さ
 の仕事は止めず能く其魔神の出所を糺して速に其根を
 断て其業を枯して可なり、然し實は彼の陰翫出沒の白
 鬼なれば、是を退治するより非常なる忍耐と非常なる
 盡力とを要するならんが、其忍耐と盡力の只は病毒の
 蔓延を絶断するの美譽なるのみならず、實は横濱の光
 榮ならん、努力われ我警官諸公、若し飯の上の蠅追ふも
 詮なしと、是を放任して其攻撃を寛ならんか、横濱の
 日本に布哇國と成て、遂に愛病國の誹を免れざるも立
 至り、遂にフガク人種の巢窟と化して泥色男女を産

何ぞ、此惡弊を醸す蓋し演說會を餌し金儲を釣らんと
 するの故ならん乎、噫社會は直曲を訴え世風の陋習
 を糺す此義俠なる演說會をして以て伊勢崎邊見せ物同
 様、金利策もやる物とせば其價值實も下落したりと云
 べし、演說會の性質決てそんな者でなし、今よして此
 惡弊を矯正せず、聽衆度々馬鹿を見るに至らば、遂に
 横濱演說會の無人島の姿と化し、偶々正直なる此舉の
 るも、例の通の一言は煙滅して坐料點火料の持出をせ
 ねばならぬ不景氣を來すや必せり、左すれば非常なる
 利益ある演說も爲め衰頹の域に立至るの自然の勢も
 して決て免る可からざるの數ならん、吁惡漢の手は墮
 たる正宗の尙ほ邪氣深き村正は優る、卑益ある政談演
 說會も卑賤なる金慾漢の手も成らば伊勢崎町の見世物
 も劣る、豈愛る可き次第ならずや、今よして此惡疾を
 醫せずんば遂に死地と陥つて救う可からざるに至るべ
 し、其治術の如何、曰く其責任ある演說會幹事の須
 く其貼紙、引札等に瞭然其姓名を明記し決して「幹事」

一文字を托し、暖昧膜糊の裡に仕事を成す表然本名を名乗て其責任のある處を示すべし、道人の爾後漠然たる「幹事」名の演説會の廣告に決して信するは足らずとせり讀者の以て如何となす

市會議員上壁となれ

壁として彼の飯沼勝五郎の如く、彼の維司谷の乞食の如く初花を引かれ兩手は足駄を履よと云うより非ず、一口云ふば能く其腰を落付て蟬の如く蟋蟀の如く餘り飛跼ぬ様もせよと云ふ在り、蓋し議員決して我籠中の鳥よあらねば吾人の筆、自儘は彼れが翼を締め彼れが足を縛せんとするは非らず、自然の道理彼が翼を断ち彼れが足を切るの時當り、彼れ能く其道は屈し其理を伏して必ず壁となれと云ふあり、此場合の外も在ての吾人何ぞ彼が靴音を窺う違わらむ此場合との何ぞ、市會の問題續々と蒐り、職として彼等の議決すべきものあるの時なり、此時又當つて若し彼等、瓢々然として鼻下の髯を捻り

暫く壁たらしむるも是又市民の責任ならむ、

只漢々

物よ本末あり事よ因果あり、若し本在て未濛く若し因在て果濛々たらんか人誰か是を賞せん、近頃世上又起る紛紜果して此本末を正うせるか此因果を全うせるか思ふは尻を放て尻締めず、物を喰て口を拭かず、只露然として起し騒然として擡げ、摺た揉だど踊り跳ぬるも皆其最終の濛々漢々雲の如く烟の如く五里霧中の間も消失せて茫然たらしむ、成敗の元より時運なり、敗の敗として告よ成り成として告よ、余の多く其末を聴かず其果を聴かざる事多し、蓋し最近世上の大問題たる、彼の相馬家騒動と、彼の星背徳問題に決して濛々漢々の間も消えず、情實の雲もなく御都合の霧もなく明瞭々と其本末と其因果とを畫出すへじとの、道人の深く信じて疑はざる處なり

警察官へ四寸五分を呈す

豫て世間噂して云ふ、實は愛たきこの警察なり、其

悠々然として窺窺たる權妻を幸ひ、伊豆よ函嶺よ大磯よと波よ浮き林よ揺らうて恬然自己が職任を想はず、閑然として永く山川の興よ耽らば如何、夫も罹病の上ならん免れ角、只肉體の愉快を貪らんが爲めは只贅澤の遊興を買わんが爲めは、此戯た爲打ありたりとせば如何、人は是を愛すべきか、人は是を惡む可きか、是果して議員の本体か、是果して代議士の本色か、其人を知らんと欲せば先づ其人の友を見よ、よと余の云わんとす撰擧市民の善惡を知らんと欲せば先づ其撰擧議員の善惡を見よと、思ふべし南瓜の蔓よの決して疍子の成らざるなり、

横濱の議員能く此場合を覺り、眞實にして堅く其椅子を守り、決して遊興のため道樂の爲めは議會も不都合を與ゑたる事なきは實は吾人の敬服任る處、然し轉ばぬ先の杖若し他日蟋の如く蟋蟀の如く又浮氣娘の如く腰の据らぬ議員も出なば、市民決して之を黙々視せず速く是を鞭ち是を驅し疾く腰ッ骨を抜去て以て

用意の周到にして且つ綿密なる、國中比ひ稀なる好警察なり好警官なり、此優篤なる保護の下よある人民の實は幸福なる市民なりと、此評言此談語の實は其當を誤らざる處、道人も常は其の警察の敏腕と活達よの實は敬服嘆賞して其門前を過る毎よの必ず一扁の拜禮をなす、其拜禮をする敢て媚るは非ず敢て諂うは非ず、只警官其職を全うして其人民の生命と財産とを保護し呉るを謝するなり

皎々たる明月の冴るも、爛熳たる櫻花の飄くも是天然の自然な在りとの云ふ、人誰か其景を賞し其美を愛せざるものあらむ、警官の吾人の税金よ依て置くもの、則ち吾々の爲は動けるものなれば、彼等の職として我々の爲は盡すの道理なり、敢て不思議とするは足らず若し是を盡さざれば則ち不道理なる不可思議なる言語同斷の人間なりと、或は壯士的の暴言を以て警官の御骨折を感せざる向無きは非ざるも、道人の咲くべき道理の春の花も、冴ゆるは不思議なき秋の月も又深く喜

んで是を迎ふ謝せんとするものなり、殊よその警察の無類親切なる警察なり、殊よその巡査に至極濃厚なる巡査なり、故よ其施政彼も偏するなく是も懲するなく平等均一の保護を垂れ、其民も接するも彼も厚からず是も薄からず公平無私の温言を給ふの實よ是の特有物産として其人民の誇稱するも恥ざるもの乎、

余の決して恥ざるなり、見よその巡査の言行を、彼の決して人を叱咤せず、彼の決して人を殴打せず、彼の決して人を壓制せず、能く務て人権の在る處を護る、是を彼の官棒官服を肩よ着て威張散し、叱り飛ばし、殴り倒し、人民を輕しめざる虎の威を借る昔日の巡吏も比ぶれば其差異果して鬼と佛か神と蛇か

斯く民意も適する警察の方針の實よ其上官の光榮とする處願くは尙々愈々眼孔を微細も放ち厚く其任を盡し給ひその民の満足何ぞ是も加えん、深く感ずる處あり謝意を表して斯く一筆四寸五分を呈す、君果し

しの動物と蔑視せり、吾々人民を羊の如く家の如き動物と感念せり、せるか故よ來客の禮も盡さず斯く亂暴狼籍を働くも立至れり、噫吾々の羊の如き家の如き無氣無力の動物視せられたるか、敷島の倭心を備えたる神州男子の鉄拳も、朝日は匂よ山櫻日本男子の名刀も、光り果して如何ぞや實も慷慨悲憤も地を穿す

讀者幸よ吾と感を通らせば能く其寛嚴の程度を計つて、決して彼も嬌び彼も諂の舉動あるべからず、毛唐人の巢窟も限て屋敷と崇め洋妾を尊で娘さんと唱ふるが如く、理否を辨せず無闇も唐人熱も浮かざる、勿れ既よ此熱も浮て彼を遇する其厚きも過たるの結果、正よ眼前吾人同胞を阿房視するも非ずや

●權濱受宿の喧突鉄砲

千草道人君足下の出鱈目の無茶久茶書よ「驚く可き横濱の雇人受宿」と標題を掲げ我組合營業者尾上町〇丁目〇〇屋よ於て云々とそれこそ驚く可き所爲を書立てある故當事務所直ち尾上町一丁目より六丁目まで

て能く此四寸五分の味を知る乎、

●毛唐人の大無禮

馬を御するの只手綱の寬嚴あり、毛唐人を御する尙馬を御するも異ならず、嚴も過ての交を缺き寬も過ての蔑視を蒙る、近頃毛唐人能くも無禮を究め亂暴を働く、元より彼の言行重々の不道なりと云へ或の吾人自から招の災よの非ざるなきか

旅の憂もの愁いものど人の情、况や古郷を去て幾千里、遠き波濤を隔てたる知らぬ他國よ來る外人や、必らず多少の心配と多少の氣苦勞あるべき筈、從て多少の遠慮と多少の氣兼無からざる可からず、其然るも拘わらず彼毛唐人の動物の我日本よ來るを以て、恰も狂犬の縛を離れたるが如く、狂亂暴行至らざるなく、或の銘酒屋よ暴れ或の妓樓よ狂ひ或の商家を騷かして尙是も飽足らず、遂よ人を撲り、人を蹴り、人を斃さんと迄暴れ居るの實よ怪む可きの次第ならずや、否々決して怪よ足らず、彼毛唐人の既よ日本人を意入地な

營業者を呼出し事實取調べたるよ丸で形跡もなきと亦末項よ悪口を無茶久茶よ叩きあれ共是れ無茶久茶の無茶苦茶たる所以かど大恕し置くが兎も角我組合の体面よ係る事故次刊の出版題も取消し可致でない頼升

受宿組合事務所

規則が在から規則も依て表面の正も取消す事斯の如し然し裏面の取消の出來たかどうか、裏面の取消と其惡弊なく、其奸計なく、其言行なく、其醜聞なきあり、我田引水の人情の自然其實果して如何、道人の敢て云ひす、其虚實の下女奴僕の能く知る處ならん乎

然し其事務所の感心なる、能くも斯く熱心も取調たり

●一就て

或投書家の御質問も答う

其惡手懸懸の手際も及ばず、其奸計警察の腕前も行かずとせば、外も致方なし君等の正直隊の須らく其正直なる事を人よ知らしめざる可からず、人よ知らしめんよの先の宿屋よ一新講の看板を掛るが如く、帽子よ大學の文字を閃すが如く、店先よ何々組合と云、何

々々團隊とか特筆大書の看板を出し、目を眠つて正直を盡すべし、左すれば天知る地知るの道理は漏れず自然に其効能の顯れて、横濱を奉公に行なら「何々看板」のある處へ頼むべしとすれば見ぬ憂目も逢ふ事なし、雇人を頼むなら「何々看板」のある處へ云ひ寄るべし左すれば確實な人物を得らるゝと云へるゝ様も致さるべし、是無敵流悪奸征伐の極意ならむ、蓋し彼れ毒舌を以て田舎漢を危急の淵に陥るゝの場合に其正直屋の義務として血性男子の本職としてドシ／＼其悪計を解剖して彼れ田舎野郎の逢難を救うべし、是又彼を自滅せしむるの一策ならむ、質問者以て如何となす

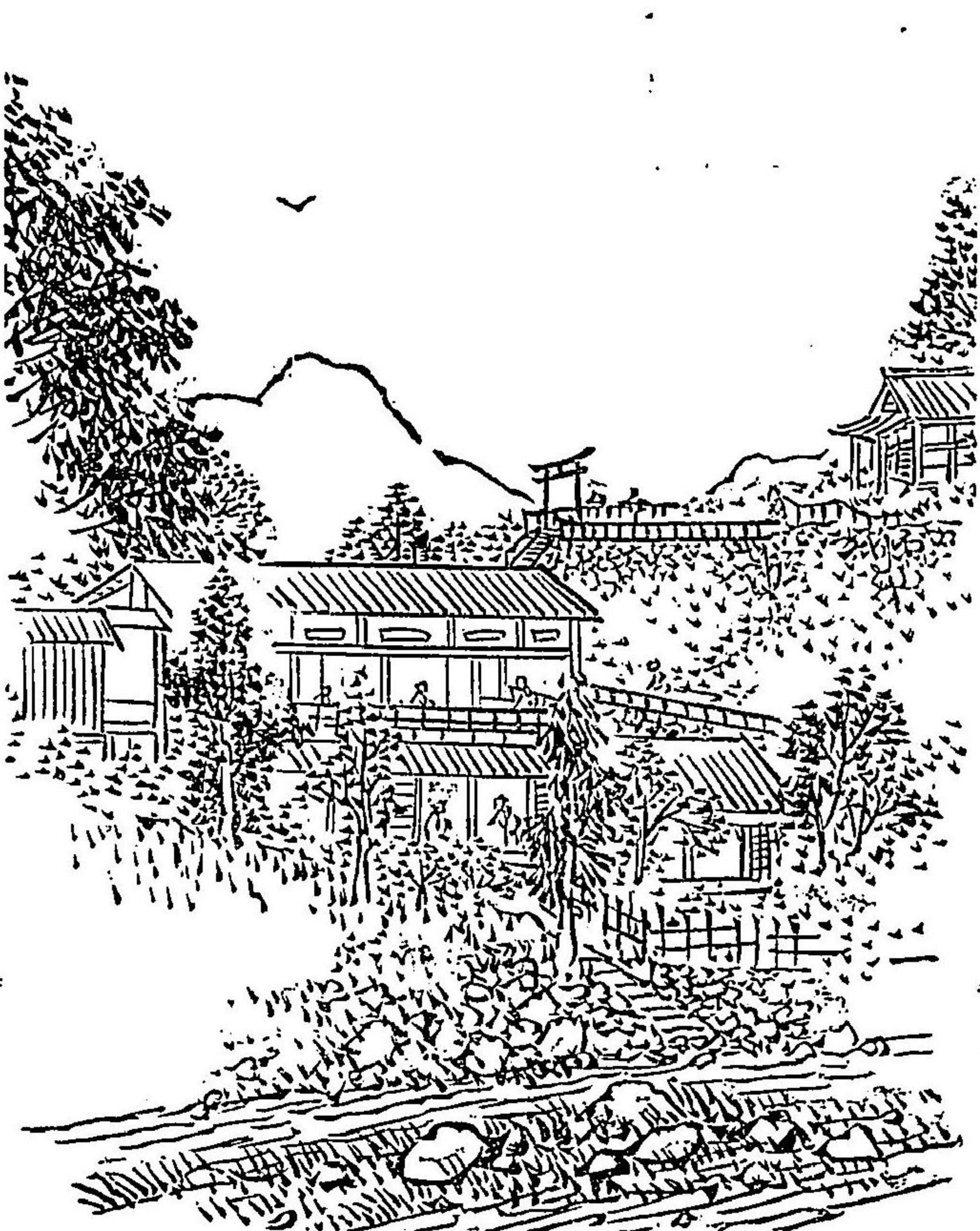


●箱根の旅

若し道人が紳士を氣取り金満家を摸し鼻の下の齧髭を捻りつゝ箱根の風月に遊びたりとせんか、道人は前者の面前に切腹せざるを得ず、腹を切るのは餘り程痛いのとの事、道人未だ嘗て一度も實驗せざれば、甘い辛い未だ其味は知らざれども、常に切る自腹の痛さ工合から推測しても餘程痛想に思ふなり、況んや腹を切れば死ぬとの噂、死ぬも命が無い

が、斜眼で道人を睨め付け居た薄氣味悪さの言辭に止る、

道人が母ハ六十を越したるものなり、道人ハ不幸にも十二歳の曉、横濱學校に通學して、伊藤の仁太さん富田の源さんを始め、馬場の寅さん、



依田の房ちゃん津久井のお今さん等と糸大爺と八級生の海日盛りに、實父を失ひてより以後十七ヶ年餘の有移轉變ハ實に多端にして、其娘は實に言語に絶す、余が懐いし娘離の程度より、増て女の手一つでやんちやんなる坊主を抱きつゝ、憂き永の星霜を送りたる母の思ひハ尙ほ一倍

の取沙汰、なんば醉狂な道入でも箱根遊びと情死は眞平御免なり、故に箱根に行きたるは決て遊びに参りたるに非ず、蓋し無茶久茶書で儲かつたから、呑氣な顔をして温泉遊びに出掛たんだらうとの疑もあらんが、夫ハ大きなお目遣ひでふる、無茶久茶書は何の爲めに著したのか、道人持体金に可愛がられず、願望も能い大磯も能い、伊香保もなか／＼結好きは思はれ共、行くには行かれず然し及ハ矢張替けて耐らず、如何か夏除工風は在まいかと、千思萬考熟々、思案を凝し、無い智囊袋から探り取た汗の結りに穿鼻たる無茶久茶書の一冊である、去れば其書は避暑の亡魂にして紳士の鉄拳、遊客の苦情に外ならず、其鉄拳其苦情が僥倖にも諸君の御意に協ふて、譬は百萬兩の大金儲をしたればとて、何ぞ反旗を翻して裏切をなすべきぞ、半馬鹿なる道人も一匹の男兒なり、豈當時流行の要切不徳を習ばんや、況んや其儲高百萬兩の萬分の一にも在ざるをや、若し夢にでも百萬兩を儲けたとせんか、道人は決して横濱の豪商に一丁のお次も据わらず、横濱の紳士に一本の鉄拳を呈せず、すゞ横濱の真中へ金光燦爛たる萬里の長城をたつ建て、之に横濱の施療病院さ細民學校の旗を翻さんものを、嗚呼天道は是か否か、彼の無慈悲なる賤俗に神を廻し、此慈悲深き道人に貧乏神を興うるは、蓋し讀者ハ皆賢明にして敏達に渡らせ給うが故に、必ず道人を百萬金の豪富たらしめんと思ひ、必ず道人の著書は何でも彼でも、其文章の巧拙其値の高下に拘わらず、出ると直様先を争うて買ひ呉給うならむ、若し道人の著者を嫌ひ彼れ些細の散財に苦情を鳴して以て道人に儲けさせざる人間は、則横濱施療病院貧民學校建設論に反對する不徳義なる動物なれば、天帝は道人に代て之を誅罰すべしと、豫て上帝より道人に書留郵便で通知書が送てふるぞ、

強かりしに相違なし、人に母の年齢を云ハしめば、必らず五六年餘計に見るは常なり、仄に見死のある艶々しく黴みたる髪、人並より太りたる肩の内も今ハ其影だに止めず、髪は銀糸を束ねたるが如く、肉ハ皺枯て血色薄らぎ、他處の老年に比べて殊に氣力乏しきを覺ゆる毎に、余ハ其艱苦の一方ならざりしを思ひ、又深く余の今日に至りたりしを謝す、聴く道人の父ハ幕府の役人にて、維新の當時伊豆下田開港の爲め同地に移り、轉して横濱開港となり、萬延年間爲めに横濱に來り、爾後官邊に職を奉じて随分可なり地位にありし、殊に頑固なる性質の人なりしと、古き横濱土着の人は咄し聽かざるゝとあり、此實父早死して母の手一つに、殊にやんちやんなる道人を今日たらしむるハ實に其辛酸思ふべく、他人の老たりと評するも又宜なりと思ふなり、増て去歲糖尿病に罹りハイデン近藤須藤等の國手の爲めに九死を出て一生存得たる身の後を難き酷熱の裡に置くも不本意と、豫て知る塔の澤藤屋の樓上に消夏の日月を送る母は、さ迄道人が懐かしきものか、來よ來よとの再々の音信に、漸く劇務を排除して母に逢いたさに出掛る旅、瀧車の走りも遅くて絶らず、磯馴松の風音も、山又山の絶勝も、目にも止まらず耳にも入らず、鉄道馬車の湯本に着せしは、十六日の黄昏にて、湯の澤山の峯ハ、霞々々こそ居居たり、

●四方の連山鬱葱たる山間に峯々天に聳ゆる白壁の高樓は、音に名高き湯本の福住なり、水聲潺湲たる早川南畔の新道を行く二三丁にて、目指す塔の澤の藤屋に着ぬ、此地ハ道人に縁故深き土地なり、同家の主人の如きは永く懇意にして一族も親戚同様の交あり、爰には余ハ函嶺塔澤に

なるものを著し又舊病を此樓に洗ひたる處にて、毎年必ず處川の爲め此樓に宿れば、道人は自ら箱根通を以て任ずるものなり、去れば是迄幾回か此地の勝を筆にしたるせい、今茲に新にするを潔とせず去りて無言に打過すも氣まり悪き次第故に左に「湯本」塔の澤二温泉に就ての名勝と聊か所感を記して遊客の便に供し次に新に見聞したる新話は別に是を列記する事とせむ、

湯本の上等旅亭ハ其福住にて、瀧の前と云はる絶勝なる遊園ハ四五丁なり、齋藤早雲建立の早雲寺は三丁餘を隔てたる本街道にあり、此寺の古器珍品ハ同所の見物ならむ、其最寄正眼寺には曾我兄弟の遺物種々あり、聞く其大黒殿は西郷南州翁に縁故あるもの、由な、の人物だとの噂、

塔の澤にハ六戸の湯戸あり曰、玉の湯、福住、藤屋、鈴木、一の湯、新玉なり、此地ハ水戸黄門朱漆水を運來し時其唐人が「嗚呼能い處だ國元の鹽山に勝る事幾等だ」と云ひたりて勝鹽山の名ある處、見物ハ塔の釜の古寺、藤屋の霧瀧位なもの、藤耳にかじかの聲を聞くも快く、岩を噛む水音を枕にするも樂なり、益て樂の極は暗に見る雲煙中の釜の松、月夜に唄ふ篝火水邊の聲ならむ、

飯沼勝五郎の舊蹟

箱根靈現堂の舞打の詠本によれば妻の初花ハ勝五郎の病氣平癒を箱根權現に祈請を掛けたりとあるが之ハ作者の虚飾にして實ハ箱根權現でハなく塔の澤で湯神と崇むる熊野權現なり、其社今ハ新道開墾の時破壊し只菩薩す殿ハ臥牛體に藤屋を抱きてあるのみ、思ふに初花ハ夫勝五郎を伴ふて此地に脚氣の轉地療養に來りたるものならむ、其証據にハ彼の自糸の瀧なるもの塔の澤の向河原靈應たる樹林の間にあり、又「夫ハそうと此阿彌陀寺ハ氏政が菩提所今日の法事を手がかりに」とある其阿彌陀寺ハ此地にある塔の釜阿彌陀寺なるを見て明なり、假に之を箱根權根とするも決して靈の勝五郎を車に載せて三里の頂上へ引き揚られ

此巡查

今鳴る鐘のありや十時か、あ、斯ふ降つてハ明朝の餘程積る事であらう、と吾妻橋の邊ハある巡查の交番所の内より降頻る雪ハ往來の途絶えたる雪中長靴ガサと踏出したる一人の巡查ハ年の頃廿四五ならむ夜目ハ定メ判らねど眉秀で鼻高き男振よき顔付、官棒を小脇ハ狭んで角燈を提げ、木村君夫ぢや巡回ハ行て呉るぜと言捨て、北風ハ横而る叩き付る氷の雨、冷たさ過て痛を覺ゆる吹雪の道をクサリクと歩み始めたりハ白中の馬車、車縦横ハ織る最と繁き往來も、寂寞として人影だハ見ぬ雪の夜、只彼方此方ハ鳴く犬の聲、風が持て來る按捺の笛の音、振り返り聴く足音ハ人ハあらで我が靴音でありしかど、獨り微笑し乍ら思ハす二三町來た四つ角、向ハ見ゆる車夫の提灯、段々近寄て見れば客を乗せた蹄車らし、然し提灯ハ煤と埃と色を失ひて暗き上ハ、増て茶色の手拭の鉢巻ハ何の爲

る様な謂なし初花が天狗ならばいざ知らず是ハ識者を俟ずして積りにも判つた話なり、又勝五郎夫婦が乞食をなし居たるハ此最寄なる板橋と云う處ならんさ云う人あり、

稻葉別荘の古狐談

塔澤山頂に侯の別荘あり、其別荘新築の折に、深夜古狐邸に來り訴て曰、私共ハ昔ハ殿様の小田原を領せらる、時より此山に棲む古狐に候が、其折にハ應分なる御扶持を給りたれば何不自山もかりしが后大久保様に移りてより御扶持なく誠に困り候はし未だ今日の如くにてハ無かりしも追々山ハ日増に閉け今ハ心安く棲む處も無く食物にも困り候はば何卒一族を不憫に思召され昔の如く御扶持を給わり度く願ひに参りて候、幸に御開濟み給わらば其御恩ハ決して忘却仕らず必らず御家を守り奉らんとすの所に留守居翁ハ早速其旨を君公ハ中上爾後稻葉社を建立し相當なる扶持を與にけるが不思議や昨年四月九日烈風の山火事あり同邸ハ實に火焔の裡に包まれたるも一階の異狀なかりしハ只車に非ず、全く其狐の加護によりならんと言ふ人あり、

● 萬緑燈中紅一點とハ、坂を登り來る美形の紅裙乎、彼れハ何だぞ、下女曰、此處の藪者也、三味線の音ハ隱刻、其餘興ハ果して何か、信谷開化、等の男藝者を見せる事と蛇蝎の如し、

● 夜ハ電燈各室に閃く「箱根に電燈化物も出たらぬ世「合中」
● 其電氣を利用して藤屋ラムチを造る「雨水ラムチ」賣口なかく昌
● ドンカチの音ハ楊弓店日萩の家に大黒屋共に淡泊白粉臭なし

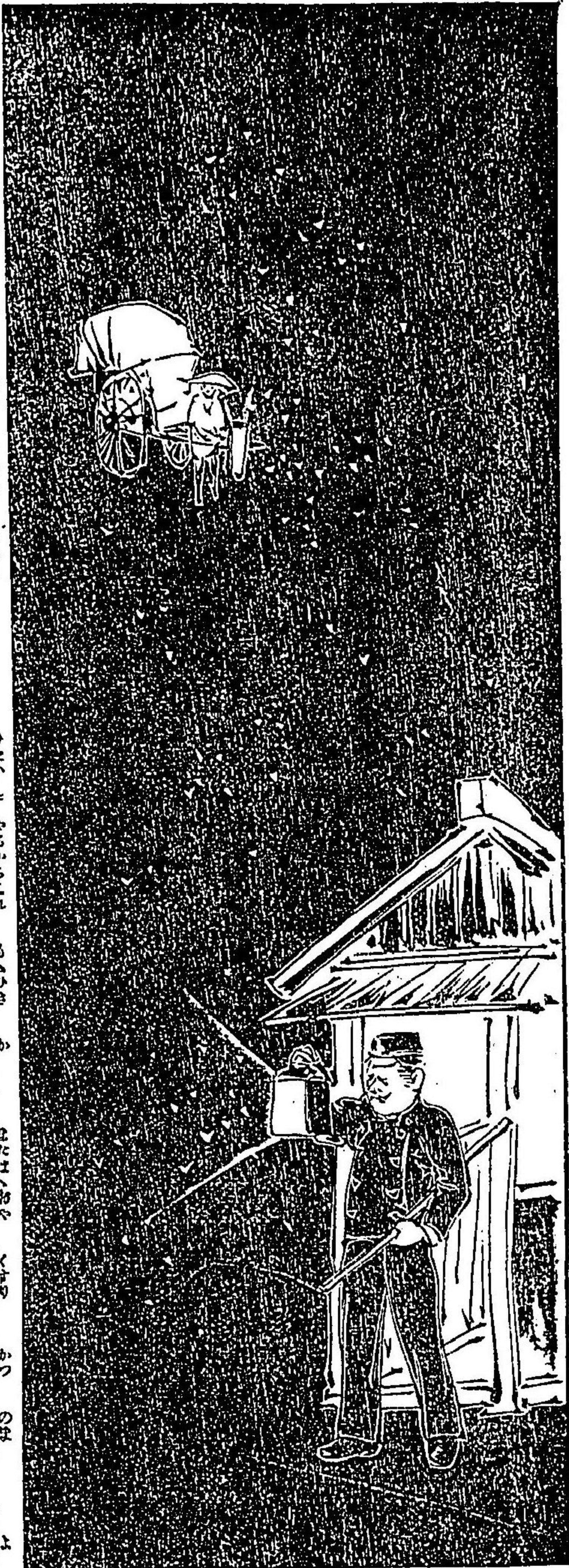
● 暁霧瀧 學海居士
炎天倏忽湧凄風 一道飛泉巖谷中
應是玉龍吐陰霧 瀧山草木盡迷濛

か、其怪し氣なる提灯より實ハ怪し氣なるハ其車夫の穿てる股引なり、巡查ハ角燈を弱し確し之を認めたり
● 車夫ハ鳥渡待た、と巡查ハ聲を掛られた車夫ハ、喫驚きたる様子、遂ハ腐つた様な麥藁帽子を脱て腰を屈め、細やかなる震え聲ハ且那樣どうぞ御見免し下さい升と、平蜘蛛の如く遂ハ雪道之平伏して、手を合す計ハ詫び入るハ、此奴果して曲者ならんぞ、右手ハ持し角燈を左手ハ持替え、眼を定て其衣服を、と見れば、這ハ如何ハ霜月の寒空ハ破れたる裕様の物、怪しきと認たる股引ハ果して股引ハあらで肌ハ黒々と墨を塗たるなり、をい其方ハ人力車營業取締規則を存せんか。はい存じて居り升る。存じて居るなら何故股引をせんのだ。はい申譯がムいませんどうぞ御見免しを願升ッウ見免して遣るまい者でも無いが何故股引をせんのか其事情を吐せ、と上邊ハ岩より堅けれど、最と柔らかき言の葉の、籠る仰ハ車夫ハ嬉しく、ハイ有難う存じます、御尋ハ興り升て何をお隠し申せう、何卒私

の不幸の身の上御聴なすつて下さりましと、更け行く
夜半は降り頻る吹雪の中は細々と、積る話を聴く巡査
只折々嘆息の蓄息をなす計りよて、腕又きて黙然た
り、

茲に下谷の稻荷町芋屋の呂路の三軒目、崩れ掛つた掃
蓄も物雪隠は狭まれた九尺二間の破小屋は、崩れ掛つ
た雨戸をこち明け、あゝ大層積つた、を、寒いなあ
と古單一枚を擔て漸く肌を隠し、總毛立た紫色の
手足を慄然震らせ乍ら、手桶を提て井戸端之行き、水
ついた釣瓶は降積る雪を拂い落してよう／＼水を酌み
來り、火鉢に掛た古鍋の下え木葉を燻て飯を炊き始め
たる男、年の頃三十餘り髯髪は何時刈しか灰色も縊
れて生茂る叢の如く、肉色の土より黒く只閃々と白青
き光を放つ、兩眼ならむ、飯も炊けたるか鍋を下し、
をいおッ母あ飯を喰なせいな、今朝の體の如何かえ、
夕から雪が馬鹿に降て寒い柄起なさんな、今湯が温く
沸て居る柄酌で遣るからよと、鍍たブリキの小盥え、

吸湯のよしや温くとも、厚き心の孝道よ、母の嬉しく
喜ばしく、身の儘ならぬ疾病を、忘るゝ計と思えは直
ぐ、涙脆き老婆の習、ほろりと覆す一頭、是ぞ誠や
嬉し泣とも云うものならむ——呂路はほくり／＼との
靴音、遂ました事のなき靴音、差配人の久兵衛さんな
ら未だ來る時分でない、増てこんな早く誰か來た
のかと、親兄の云いず語らず呂路の方を見る途端、を
い御免よと入來る、正服は官棒を狭んだ巡査、見る
より親兄の何事なるかと驚て平仗をする、巡査の隠よ
り取出す一個の紙包、をい其方の昨夜の車夫のう、
と云われて不思議な顔付、頭を擡ぐる最前の男、熱
々巡査の顔を覗く様にして見揚げ、貴殿様の昨晩の且
那樣でムリ升たか、能く魔ア御出下さり升た、まあ／＼
此方え、チイお母あ夕話したの彼の且那樣だ、能く御
禮を云て下さる、若しも夕べ殿の且那も出會を、もん
なら、屯え引張て行かれた上よ、罰金を取られる處で
在たが、此且那様の御慈悲で無事よ斯して米も買えた



と云のも、且那樣誠は昨晩の有難う存じましたと、額
を疊る摺付ての親兄の喜び、巡査の熟々と家の様子と
親兄の様子を見較べて、さも氣の毒氣な顔付、又世よ
珍らしき孝行者、實は感服な男よと、云わぬ計な口元
を開き、何其禮よ及ばぬ事だ、然し股引を穿んでの
規則は違犯する柄、此後目よ止れば職務上處分をせね
ばならん柄、爾後の屹度規則を遵守するが能い、是は
僕が給料の遣ひ残り、僅か二圓も足ん金ぢやが其方よ

遣柄是で股引を買ひ、又母親も藥でも買て飲せるが能
ろしい、實に最度遣度が、僕も先月巡査を奉職した計
で、至て薄給で有から残餘が無いと、優しき口元よ
笑を含んでの辭を、無言で聽居る親兄の胸の嬉しさと
有難さよ張裂る計り、世も御慈悲深い且那樣と思え
ば堰來る涙の雨、鼻も噉りて袂受け、暫し頭も擡げ
ざりしが、漸々顔を揚げ、且那様の御情の死でも忘
れの致しません、有難う存じます、此お金の何卒

予お納を願升、昨晚御見免し下さいました計で、親見の者が斯して朝御膳が喰られるのでムいませ、此上勿體ない何として此お金が戴けませう、何卒お納を願升と、強て断るを耳もせず、僕に至急御用が在から又其内逢ませう、病氣の負苦勞を呉々も大切致すがよいと、其儘表る出で、行く、後を見送る車夫の親見互に顔を見合せて物をも云ひす共々袂を臉に押當て喜ひ涙も暮れ居たるが、暫して心付く母親、お前彼の旦那様のお名前を知てだらうねと、問ひれて心付く孝行車夫、お、是は大變な事をしました、つい有難いのと嬉ひのが胸一杯塞つて、つい忘てお名前を聴かなかつた、サア大變な事をした、此御禮又行くことも出来ねえ、サア大變など狼狽て表る走り出して見れ共影だも見えざるよ、是りや何成たら能からうなあッ母、母親の風と戸口は落散りある四角な紙、手を延して取上げてお前これ何と書いてあるのかる「淺草警察署詰六等巡査神山善之」

軒を並ぶる街中、殊に白聖の夕陽映して銀光を放つ美々敷高閣、鉄柵の裡に植込の柳櫻の殘の雪を装ひて紅の色は優る風情を添え、兩側は屹立たる門柱の嚴めしく、右に掛けたる札の墨黒々と書き染むる「淺草警察署」の文字、裡に数名の警部巡査兩側は席を正しく居並び居る、茲る畏るく腰を屈めて入來るの見るも醜せき賤の男子、はいお願でムり升ると入口最近の巡査は物云ひ掛たり、なんだ願ひとか、願ひ事なら正面の署長のお傍を參て申せと、云ひ放したる儘何か郵紙へ物書き始む、はいお左様さまなら御免下さりまして、兩側の巡査を畏るく正面署長の傍に進み平蜘蛛の如く平伏したり、昔の受付の六等巡査の役目まで、無間な叱り飛ばされる處であるが、追々歐米の風儀と變りて、當時の署長自ら人民に接する事となりし、署長之を打見やり、をい何か願ひの筋か、願ひの筋なら立て申せ坐らずとよいわ、ッ何蛇、はい畏れ入升る何是で宜敷ムり升の何の願蛇早く申せのはい私

の禮は參り升たのでムり升、ハハ私に人力挽を致し升る與吉と申者と、是より吾妻橋の邊まで神山巡査の見定められたる墨股引の一件より、實母の病氣と貧苦の次第を包まつ打分咄せし始末よ、昨朝二圓の恵を受し頼末まで具し語るを聴ける署長の頭を頸垂れ腕を組み黙然として居たりしが、終に屹と打見やり、神山の汝の宅へ參りしに昨朝朝でいあるまいが、神山巡査の昨朝より至急探偵の御用で市内巡回を命じたれば、決して汝の宅を參る譯の無い筈だ。いゑ確よ昨日の朝六時頃でムり升。能く考て見ろ一昨朝であらうが。いゑ、二圓のお金をお持ち下さり升たの確よ昨日の朝で其お恵金で昨日此着物を買ひ升たので、今朝から威張で車を挽升たのでムいませ夫故只今仕事を仕舞て早速御禮を參り升た譯、旦那様の立寄下すつたわ昨日の朝は違ひムいません、そうく其時旦那様の大層お急ぎの御様子で、澁茶一杯揚る間もなく急いでお歸り成升た、と云うを聴入る署長某ホッと蓄息のきわめず最

う宜し判つた歸るが能いとのはいお左様さまなら旦那様何分宜しうお願申外と車夫の情々立出る、外の賑ふ夜の景、四方は閃く電燈や、喇叭の笛の音高き、凌雲閣を横見見て我家を差して歸り行く、紺色小倉の古洋服よ、眼の曲つた破れ靴、饅頭笠を冠りたる一人の親爺、手も提げる灯提よ「淺草警察署」と印しあり、來掛る處の山谷の新道、様子知つたる呂路の正面、格子がらりと押開て、ハハ今晩の之を神山さんよと投出す、中何やう白髪の婆、毎度苦勞様と取揚る帖面は狭んだの状袋、持ちつ、二階へ駈せ來り、神山さん本署から御手紙が、神山の横も成て今新聞紙を讀み始めた所、何本署から手紙が來たと、來る筈の無いがと、頭を傾け不審な顔付、帖を受取の捺印して、お咲さんはを小使を渡してお呉れと、帳簿なげ遣り手も取る封書、手早く開封すれば時ならぬ御用召、まだ上給の時分でもないが

明日九時正服着用出頭可有之候也

其翌朝出頭して九時過り受取る辭令の
免職務

神山の驚きたり、僕何の爲め免職なりしか、免職なる様な覺のないが、何で免職なつたのだから、力も骨も抜たる落膽、其儘下宿屋を歸り來るも、憐れとして樂しからず、時々蓄息をなす計、思はず漏す細り言、噫仕方がないワ、明日から新聞の配達でもやろうか

茲に入來る下婢のお咲、神山さん又御手紙が参り升たと差出す一帖、狭みある大形の状袋、裏は黒々と摺出したリ警視廳の太文字、開封して見れば、又も正服着用九時出頭の御用召なるも、其如何なる譯なるか、一向別が判らずと獨り言、今日の免職も變手古だが又此警視廳の呼出も變だと思案も暮して、翌朝損料借の袴羽織も身繕ひして出頭なし、十時頃受取る辭令の

茨城縣士族 任十等警部、月給十二圓下賜候事 神山善之

起遅く寝て、其々家業懈怠す、所の役人年上の、人を尊敬して輕蔑な、兄を敬ひ弟を、惠みて親類睦間敷、悪き人への遠ざかり、益有友を慕ふべし、婚禮爲りの其容儀、里の貧富を拘らず、親孝行有人を、求めて家の妻とせよ、普請諸道具若物も、身の分限を顧見て、奢を慎み儉約し、借たる物を疾返し、成丈借財せぬ様も、心懸て道ならぬ、利徳を欲がる事莫れ、女子の嫁入する先の、姑め舅を父母と、思て厚く孝行し、格氣嫉妬を慎みて、夫又貞節怠るな、若先妻の子が有バ疎かゝ爲な稚子を、後又殘して行人の、長き別れの悲しみの、如何計りぞと思ひやり、實の母も成代り、深く憐み養育べし、親子兄弟嫁姑舅、夫婦の間和きて腹り勾留こと無し、最も目出度こと多かし、幼き時の双親を、暫しが中も離れじと、慕ひしものを妻や子の、愛も引れて何時と無く、疎く成行疎薄さよ、我子を憐れむ心も、親の慈悲をも推計り、子持人の別て猶父母より孝行勵むべし、蔭日向なく敬ひて、其身を惜まざる

淺草警察署詰を命す

借 査

金七拾五錢

神山善之

孝道深き車夫の貧困を憫み海給の内を以て金貳圓救助候段奇特に付爲其賞頭書の金員下給候事

警 視 廳



● 孝行和讃

宣契上人作

夫人間と生れて、先孝行の道を知れ、親不孝の輩の、鳥獸も劣れりと、古人も恥しめ置れたり、其孝行の趣きの、親の心を悦ばせ、苦勞を懸じと謹みて、遊所徘徊遊参ごと、大酒喧嘩人惱め、博奕徒黨強訴せず、總て公儀の御法度を、背戻ぬ様も相守り、朝早く

仕ふべし、若父母が愚みて、分なく己れを憎むとも、我孝行の足ねばと、身ら責て露ほども、親を恨むる事莫れ、父母孝行する人の、子孫の榮へも思ふべし、家の繁昌するせぬ、子の善惡も依ぞかし、子を能育て上るもの、常々親の爲業が、能ければ子も能く成ものぞ、如何ほど厳しく呵責ても、親の身持が悪ければ自つと子供も不持なり、その離絶令父母が、不道放埒なりとて、子の似をせず身を修め、折を見合せ諫め乍、正しき道も誘引入れ、親も惡名取せるなよ、若父母が後の世を、願ふ心の起らずば、朝な夕な佛神の冥加を深く請願ひ、時々勸め誘引て、佛の道入しめよ、兩親先祖の追善の、其ほどほど順ひて、供佛施僧の善を積、人目を莊らす眞實も、菩提の爲も回向せよ、手向の誦經念佛を、僧を頼みて足りとし、自らせぬの鹿略なり、成たけ自身も勤むべし親の存命せし時、何程孝行有とて、死しての後の追善を、疎遠にする輩らの、孝を盡す非ずと、八幡宮の託宣ぞ、遠

きを追て懇み、親も孝行有人の、神も佛も哀みて、常
に護らせ給ふ故、其身も安く子孫まで、餘慶を受ける事
ぞかし、神明佛陀聖賢の、教を守り孝行を、一期懈怠
事莫れ

附

孝行の實も高根の花なれや見上られたり敬られたり
團扇も寄て

二親を敬ひあふぐひとならむ丸く脩るぞかし
孝行の親がさすのか子が為か親子のなかの誠もぞある
寝て濡し起ての乳も取付て母のふところ干くまもなし
差向ふ鏡も親のなつかしや我影ながらかたみと思へ
子を思ふ親ほど親を思ひなば世も有難き人と云われん
撫捺り大事にするも手熏の冷たく成ぬうちよこそあれ

姥捨山の逸事

時の習のせと云ひ乍ら年老たる男女の姥捨山に捨た
る頃、一人の農夫年老ひたる母を捨て去らんとて一個
の籠籠を造り此上よ老母を打乗せ息子と共之を擔げ

らお婆さんの様も此山に捨る時よ使ふ籠籠とするので
すと父其言も感じ母を連歸り永く孝養を盡せりと

金の爲め

金の爲め喜び金の爲怒り金の爲哀み金の爲樂む、これ
小人の事のみ」金の爲め笑ひ金の爲め鳴き金の爲め働
き金の爲め座す、これ亦小人の業のみ」金の爲め節を
折り金の爲め名を汚し金の爲耻を忘れ金の爲義を挫く
これ亦々小人の行のみ」金の爲自己を忘れ金の爲國家
を忘れ金の爲め君父を殺し金の爲め地獄に墮つるよ到
りてのイヤハヤ………喝り

一陣無常の風來らんか、金錢財寶妻子眷族田園家宅家
具六畜一つも汝も從ふものなし、只煩惱と云へるカバ
ンと麻売のステツキとを持し、六文の渡し錢を貰ひて
三途の川も旅立せんのみ噫々

白川樂翁公之箴

淫酒の早世の地形なり」堪忍の身を守るの梁なり」苦
勞の榮華の礎なり」儉約の君よ仕ふる材木なり」珍珠

姥捨山に登り既之を捨て行んとせしよ孫其愛別離
苦も堪はず父も連歸るとを勸めしも聞入ざりしよ何思



ひけむ孫の其籠籠を擔げて持歸らんとせしよ父の其籠
籠を何故持來るやと問ひたり孫曰今貴父が年を老た

珍膳の貧の柱なり」多言慮外の身を破るの根太なり」
華麗の借金板敷なり」法度の僕を仕ふるの屋根なり
」我儘の朋友も疎まる、障子なり

諸佛の通戒

官武外骨

諸惡莫作、諸善奉行

○善と惡との反對の語なるを以て各々別立の働を
なすかと思ふと大に然らず

○表面よりやさしき語を用いて親切らしく見せか
け其自己を利する惡を行行者多し



投書

横濱貿易商組合も除名すべき者あり

伊藤仁太郎

敢て商人の理窟を云ふ可からず杯と無理の中をいれど、云ひで濟むべき
屁理窟を列ぶるの餘り感服仕らず、貿易商人の貿易を隆盛にする他、屁
理窟を無業するものさへ、何人もさへ想はざりしならん
横濱貿易商の紛議の殆んど横濱の醜体を暴露したるものなり、吾人の實
に此内幕の世間に發表せらるることある毎に轉た痛哭の至りに堪はず、
如何に行掛りの事情なればきて、探訪者に金を贈りて記事を捏げ、壯士
に口實を與へ助力を乞ひ堂々たる紳士が、自ら胸刀沙汰にさへ訴へて、
大騒ぎをなしたることを實に市民の面目を云ひ難きなり

一日も疾く和解の運びに至れかゝと、待設けたりし空願ならずして、川田氏ハ仲裁の駒に、一鞭あて乗出でたり、双方の重立たるものより、輕立ちたるもの迄、皆な進んで和解の事を托せり、是れ實に喜ぶ可き事にして、若し此の如き事件に騒ぐの力を併せて、貿易上の實益を謀らば、其効の偉大なる決して疑ふべきにあらず、貿易商人にして、一點の理心あらば舊來の感情を抛ち、光風霽月の下に、和解の事を請す可きなり。今や横濱貿易商人は、一致して此議論を實行せんむ務めつゝあり、而して澎たる一小貿易商ハ、頑然動かす、猶ほ屁理窟を轉れり何ぞ夫れ陋の酷きや、此の如くんば實に木村氏の意に反くのみならず一貿易商の平和を破り、紛紜を好むものなり、貿易商の全体ハ既に、此仲裁説を是認せり、而して、一人、故障を唱ふ、是れ貿易商の全体が、認めたる利益を、破壊せんとするものなり、是れ貿易商の商敵なり、俱に手を携ふべからざるものなり。

故に此際、組合は斷然、を除名して、將來の平和を謀れ、然らずんば仲裁者に對するの面目を如何。咄、ハ商界を脱して、三百代育となれ、汝の如き執拗なる輩ハ、大に流行せん呵々。

記者中、ハハハ文字ありしが御遺慮申で除きたり、伊藤君及讀者諸君其罪を免せ

●横濱人物評

●一ノ瀬勇三郎君 (檢事正)

氏一度足を横濱地方裁判所へ投するや、人皆愕然として驚きたるハ實ハ其敏腕と其英達とのみならず其非常

ハ氏の恩恵なりと予ハ深く謝する處尙氏の管ハ居留地ハ止まらず職權のある限ハ總て改革ハ改革を加え身を犠牲ハ供して盡す可き決心なりと實ハ君の厚志ハ愈々感佩する處なり而して茲ハ聞き得たる氏が履歷の一斑を擧れバ氏ハ大村藩士として明治三年貢進生として大學南校ハ入り茲ハ在る事今日の大體となるの間、明治八年司法省の募ハ應じて明治十一年司法省判事となり律學校を経て法律學士の稱號を得后司法省判事となり在官の儘獨逸ハ留學する五年夫より諸國を遍歴して歸朝、直ハ長崎地方裁判所檢事正となり司法省參事官となり轉じて横濱地方裁判所檢事正となる、性懇篤ハして頗る正直一片無臭の好人物なりと

●渡邊福三郎君

如何ハ能き星の下ハ生れたる人哉、身ハ巨萬の財寶ハ包まれ、名譽ハ横濱市會議長の椅子ハ輝く、其柔順なる齒痒きまで温和なる記者曾て市會議事傍聴ハ出掛たる時の如き、知らずハ議長君もつと強硬ハやり給え」の

なる耻勉ハ遂ハ三伏の酷熱を冒して一日の休暇をもなさず晝夜を辨ぜず孜孜として其職務ハ鞅掌し、尙近く石川山頭の官邸を拂て檢事局の一室ハ寢臺を据て閉籠り實ハ寢食を忘る、迄ハ其任を盡しツ、あり、爲めハ其餘波布て在官の面々ハ迄臻り、大いハ其所内の改革を促せりと、誰人も云う實ハ比ひ稀なる得難き好役人也と、予ハ其酷賞ハ非ざるを知る、殊ハ氏ハ外人の爲めハ日本人の有する權理を枉らるゝ往々なるを慨嘆せられ又恰も無政府の下ハある蠻民ハ如しき居留地部内の不取締を痛哭せられ、大いハ視線を茲ハ向けられ既ハ米人ウイレット日本人銃殺事件ハ對する領事公判廷ハ於て米法の許さざるを知ら本邦人の爲めハ遂ハ彼ウイレットハ對し尋問をなさんと迄せられたるが如き又曾て米人コフランドが日本婦人をして醜業を營ましめたる事件ハ就て憤然前例なき新軌軸を出して彼を社會的制裁の下ハ屈伏せしめ遂ハ道德の罪人となしたるより爾來多少居留地部内の醜風を拂ひたるが如き實

激言を吐かしめたる程温和なる人物なり、柔能く強を制すの古語或ハ其當を得たるものか、然し余ハ君の爲めハ悲みたる一事ありし、其悲みたるハ石油タンク設置問題の時なり、君ハ其舉動正ハ設置派の真相を顯し致々として之を務められたるが爲めハ一寸輿論の逆流ハ立しが如く人大いハ疑ひを其間ハ狭み彼是惡評を下す人多かりし一事ハ實ハ君の爲めハ悲みたるも今ハ其影漸く薄らぎし、聴ク氏ハ昔柄の財産家として成上りの金満家ハ非ずして音ハ名高き東京日本橋なる鼻赤明石の弟君なりと

●樋口登久次郎君

一看人皆其紳士たるを知る、自然ハ備ふる風采、天資富豪の和を呈す、人ハ對する温厚又篤實、宜なる哉一朝巨萬の富を至し飛で今日の高位ハ坐するや、氏ハ頗る經濟の道ハ長じ、萬事少しも抜目なしと、記者ハ想ラ不日訪うて其胞懐せる意志を聽かんと、而して氏の評判の善惡如何ハ僕能く之を知らず

●若尾幾造君

英敏なる商略家なるより相違なし、天敏なる考案家なるより相違なし、或人其技倆を彼の有名なる濱野昇より比し彼若し梅の覆郁たらんか是れ櫻の爛熳たらむ、噫幾造君の至妙なる土藏の裡に逸居して能く生糸相場の上下を知る、之れ決して他人の爲す能はざる處と、八王子の相場師に能く氏の一舉一動み着目して以て其變更を下する位なりと、人質甚だ温厚又随分徳義心を有すと余の未だ逢はず書き度事も未だ記す由なし

●來栖壯兵衛君

横濱商人中の色男、頗る女好きのする才物たり、辨説敢て流暢ならずも甘く微音も言廻すの妙あり、書も能くし文も又相應なかく役も立つ男、役も立つが故も小野君より可愛がらるゝに至り遂は其令嬢と結ぶに至る氏の歸尚壯として縣會議員となり市會議員となり、商法會議所の重役となり何々の副會長何々の理事と種々雑多羅の名譽役を遣り終すにエラいもんなり聞か

とい云ひ難からん、記者の實も君の爲め悲まざるべからず、堂々たる辨護士皆川君の名聲加ふるに共其悲を加ふ、君須く一舉手一投足も尚深く御注意在て可なり、記者醉狂も人も問ふ、なせ皆川君のなせ不人望なるか、人曰、先生の主義一定せず夕の自由黨又與し朝又變て改進黨又籍を容る是氏の名望を下したるの重因ならん若果して然りとせば其意のある處を吐て自由黨と袂を分つべき理の在る處を公よせば以て其名聲を買足らんか、君以て如何となす

●朝田又七君

其軍略も長じたる途に推れて貿易商參謀長官となり彼の戦端の時の如き身自ら騎馬を鞭て獨り敵陣へ切入るの猛烈なる人をして呆然たらしむるの勇氣を備ふ、人曰云う目から鼻を抜るとい實も氏が事かど、實も其舉動の快活なるのみならず實も伶俐なるも相違なし、伶俐なるが故も從て金儲も上手ならん、金儲が上手なるが故も今日の位地と今日の名望を得たるならむ、聞

實父の頗る人望家として又頗るばでな男なりしと、昔懐中時計が珍らしき時分金鎖を仙臺平の袴の紐に纏め金時計を懐ましたりしと、故も本町一丁目金指六左衛門名主手代一丁目助役人として誰知らぬ者なかりしと而して氏の横濱洲干町に生ると云人あり

●黒部與八君

横濱自由黨の顔役として又地主派の親分として亦市會議員の理屈家として又一種一癖の米屋さんとして名聲赫々誰知らぬ者なき與八君とい記者不幸にして未だ一回の面識なければ、穿ち得たる評言を呈する由なし故も茲も自治記者の評言を借來つて云い、曰、磊々落落の大丈夫、胸中一片の蟠無く竹を割た様な氣象其物も感じて謂うや音吐恰も破れ鐘の如く又何處となく愛嬌ある一個の豪傑と果して然るか否

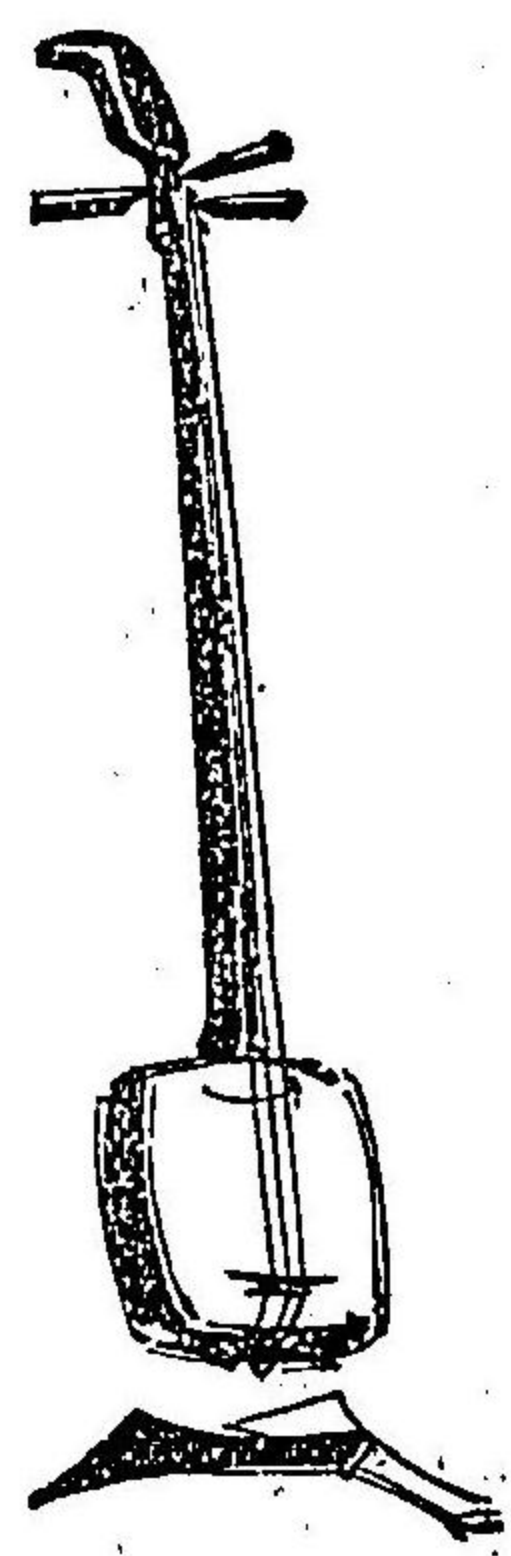
●皆川廣濟君

此人兎も角横濱での名を賣た人なり、然し記者無遠慮も云い君の評判餘り宜敷様でなし、人望又餘り篤し

く氏の三河出身の人として其昔の元町なる石川又四郎氏の旗下に在て其店支配の職をなせりと兎も角其昌んなる尋常一様の眼識も非ざる真も得難きの人物ならん

●小野光景君へ向て深く謝す

前回無茶久茶書「貴評の裡、尊父兵助氏の事も臻り、一時番屋の書記を務め居たりしが、の文字を植しに全く誤聞も出でたるもの、如なれば茲も其文字を削る



●小力裙

小力一名がら力又力平と云う其裾々落々ガラ／＼する處から、裾の横濱紅裙社界の大姉いで藝も達者なら酒も達者亂暴も達者ならお饒舌も達者なり、此裙昔し赤襟が紫も化れた時分なかくの浮氣もの、白梅關の

奇談もあり紀州の國の咄もあつて随分面白い珍談を持つ上げた女、然し上での心締り馬鹿でないからエンーもんだ、扱是柄道人が力平の來歴を簡單にスツパ抜かん、力の在所の東京の木挽町で青ッ鼻をくつ垂した時分の鮎屋の娘であつたが、持体奇様な質で物真似が上手な處柄六才の時古今亭玄ん生望まれて喋々騒て高座でも饒舌を始めたのです「此時分今の様な酒浴でなく又遣手でもなかつた想だ」柄口の達者な筈です、夫から今日と過ぎ明日と暮し順よく十二才も成り始めて猫の皮を冠り始めたり、始めた處の水戸上町でゐる、さて猫又化けたの別な浮た節でもなく浮れた沙汰でもなし「想だろ十二だから」親の爲め成たどの感服、茲に居る事足掛四年、十六の時横濱を飛込で追々上進「脚氣なら大變だか」今日も到る、「力裙どうた驚いたらう」裙の親孝行の皆人の知る處、今でも兄の子供を養ひ老母も能く事うと云ふ、裙の戀なんでも來いなり、其内最も扱たの義太夫ならむか、書も能くし歌舞

も能くす、只悪いの酒癖なり

●久吉裙

「吹く風は靡くすなをな柳哉」誠すなをな可愛らしの藝者、頗る丁法な、なんでも來いの特藝を有すとか、其藝の中でも新内節が御膳だ想、想たらう親の娘だから、裙時々遠の走りをする、箱根やら日光、何しも行くのかお花見でもあろうか、裙の感心なとよの毎月十五圓宛親元を送るなり、秀調の瘡形が大層お氣入れた想な、歌舞伎座見物も三度一度の休んでよかろう

●いろは裙

トツピキビノビーとお龜の面を冠り込でお神樂然たる踊りが上手、其丸ぼちやの愛嬌は熱くなり寒くなり固くなり柔かくなり谷川超る逢ひも來る人あるか否、裙歌舞伎座が大層お好ですな、芝居も好がたんと喰て時節柄腹下しを御用心、然し大阪言語が又格別裙の取廻しの上手なる若猫の才物と人の評判

●大泉のともる裙

新橋の大風呂敷と綽號された大姉今春の三人組と指を折られた飛鳥墮した阿川屋の巴さん、顔の真中高くなり過たのかどうか今で横濱の裙中も切り入る、此裙何でも出来る、然し持たが病かまだ大風呂敷を廣げるとチト、然し感心な事よの藝人社界をよくも名を買たり

●小吉裙

此裙一時電氣燈になり掛て目も付くゆえ、前回「無茶久茶書」えも引合も出で、又二度の引合もチトお氣の毒見た様だが、悪く思ひ給うナ君が別嬪だから目も付のだ、裙の太田の川魚隅田川の娘だけ能く喰い給うと、何を喰のか僕に知らず、裙大安賣だそう坐敷が、御どの病の如何ですか、榮三郎が大層御最負だそうどの同猫の噂、然し芝居で見ると何の沙汰も及ばざるの感心な話なり、扱て次回えの裙の美事善行を出し申さん

●小とく裙

年の二八か二九からぬ頗る付の別嬪なる事、今改めて申

すまでもなし、其藝事の巧拙の僕知らねば何とも云えず、然し親元を毎月拾圓宛を送るとの褒た話なり、今いどうか東京上流紳士の持物たる事もありしと、裙の容顏花の如きより或るお憎者の朝な夕、山々の思ひを云ひ寄るよしも承る、裙果して是も靡くか否

●吉裙

裙の小野の小町も似たりとい豫て人の噂も聞けど、道人不粹藝者の揚方も存せねば其容顏を拜む事もならざりし、所が妙な所で、塔の澤の温泉で計らすも嬢の容顔も接したり、道人の嬢を見ると共身崩れて正しく恍惚として茫然見惚て成すことも知ざりしなり、暫く恍惚として茫然見惚て成すことも知ざりしなり、噫嬢の友の何人か、彼の黒セヒロ洋服を纏ひし淺黒き男の何人なるか、實は彼が心中の如何も樂しき思ひを張らしつ、あるか、此温和なる此高尚なる此優美なる此情深かる可き美形を然も妻君風も造りなし、艶々敷丸髻の薄化粧も飾りさも睦まじ想も手も手を取りあひ

話しあひ、同じ車も乗り同じ瀛車も乗り同じ馬車も乗り、来る其嬉し想なるもの、彼の果して何者か何者もよもせよ實も果報なる男よと道人の熟々其黒き顔も見取れたり、ア、互に嬉し想な笑をなせり、ア、横目で見合ひたり、ア、一處に衣服を脱ぎ始めたり、ア、同じ揃ひの裕衣を着たり、ア、皿の魚を衝初めたり、ア、連立ちて誰も居らぬ湯場へ行けり、ア、早や電燈の照きたり、ア、最早人聲なき夜更となれり、ア、彼れ、今、ア、實も彼の男の如何に嬉しかりきか如何に樂しかりきか、せめて道人も一度も彼の眞似をしたきもの、ア、人が愉快とする湯治場も道人の強く不愉快を感じたり、今日に限つて、杯知らず、煩惱の鬼となりて、山又山の松風も鳴音床し「かじか」の聲も、とんと耳をも入らぬ間、夢の鳥も破られて、と見る山の霧深し

嬢の來歴と其細評の追て精しく掲ぐべく這回の生が寝言で御容赦

●横濱素人義太夫一ト口評

横濱素人義太夫の天狗連あり、皆鞍馬山の太僧正を氣取て寄席の高座で五色の聲を洒々と吐く、其笑止きも又一興と聽衆なかく多ければ、左に其一ト口評を試みる、

- 自評、其美くしき恰も薔薇の露を合むが如く云分なし
- 一勝、近頃メキ／＼と上達言調の變化妙々々
- 吉遊、能く覺たり電氣燈の艶なかと巧、然し其情の寫ぬと時々ハ残念
- 和昇、堅き石橋を金の杖、故に目立て面白くも無れハ又無事也
- 我生、大膽で能く通る、或人曰緋糸渡りと、時々ハづさねばよいが
- ミドリ、飽迄色男の美音殊に自由自在云分なし、なれどチト仮聲めく
- 臨遊、下手に非ず上手也其管四天王の一人、物騒な義太夫さも悪口か
- 羽鳥、工者なものと也願くば尙上等師匠に一ト稽古
- ハロニ、甘いものなり只脾の不充分樂屋で壯士めきたる昔情ハ傷也
- 新玉、其艶を自由自在に賣る頗好評流石ハ親の子丈あるぞ
- 一力、品物堅固でチト賣口が悪くハ無いかと
- 黒狐、音聲ハ兎に角太夫然たりナセ休業す
- 泉笑、語り方丹次郎の如し随有て人柄
- ペロリ、人の評ハ甘い想、然し君の音聲ハ未だ聴かすなせ寄席に出ぬ
- 紫山、是ハ御膳の品物、頗る達者先づ横濱素人太夫中の勇將ならむ
- 鹿の子、顔がのつびりして居る柄床付ハ最上等願ば胸から聲を出給
- 里野、師匠の淨瑠璃を大事に守ると云う可し
- 五六中、お名の通御夢申然したとを押しやるのミ臆を押しハ何の呪か

- ロカク、志渡寺を語れば甘過ぎる位なり
- 花鳥、一寸相生太夫に似たり
- 一柳、數年の御稽古古言葉ハ甘しだが目下義太夫を語るハチト……
- 龜遊、咄し家の工合然し緋糸渡の處もあり

此外加評すべきもの澤山なれど餘白なければ又追て、追て出る迄に善惡の御投書を願升



●大塚成吉君を訪ふ

辨天通事務所を訪ふ、いや御待遠と二階へ登り來る、頭ハ五分刈嚴めしの入道、餘り結好らしくもなき白地浴衣、古く懇意なれこのそ之が大塚君、若し初對面なれば誰か此人をして横濱録々の辨護士佛國法學士大塚成吉君と見るべきや、高く踏んでも其會計方位な裝飾來ると直ぐ様横據坐を組て快語を放つ其磊落なる其淡白なる毫も虚飾の風も染まず毫も自尊の色をなさず純然たる書生風昔懐かしき燒芋の最と温き懇談を交う、噫是一個の豪傑手時事評談の間、一の瀬檢事正の事

及ぶ氏聲を願まし口を極めて酷賞し、無類飛切の人物と、殊に日本人の權利の爲め、對外國人ハ盡す所實ハ一身を犠牲に供するの厚意を喜び、爲めハ彼れ外人の我對する動作、自ら其變り來りたるハ實ハ氏が賜なりと、君若し氏を評するならば筆を極めて書くべしと云ひ、記者不文だから甘くは書きすまいと答う

記者曰、想う横濱の辨護士の概してグツ／＼の人物多く能く英敏又其業ハ當り活潑又其職を盡す人物なく云ハ判官の氣息を窺つてコソ／＼小刀細工を遣つて居る人物多き様ですか如何です、左様實ハ其通りです、然し此一二年ハ十三人程學校出身の若手が飛込で從横運動を始めたので以前二十八餘の居睡連中も其刺激で近頃ハ大層運動を始めた様子、實ハ判事檢事辨護士の鼎の三足の如きもの若其一を缺かば決て其完全は得る能はずと云ひ

●大谷嘉兵衛氏の談話

○横濱衛生會と同市長以下減給と製茶景況談

鎌倉の別荘之趣かる、由よて横濱國府間の瀛車中よて
 遇う、車中乗込の横濱病院の須藤國手と脚氣病院の木
 村國手等よて瀛笛一聲河を送り山を飛して駆け始むる
 震響中種々なる世事を話し始めたり、
 道人の氏よ問ふ、貴君も構濱衛生會の勅撰否特撰議員
 の椅子よあるが、同會は充分なる資力もあり又此度大
 日本私立衛生會との關鍵も解て單獨なる立派なる壹
 本立の横濱の衛生會よ成たが其運動の悪疫流行の際よ
 通俗演説會を開く位な事が上乘の運動で此外目覺敷仕
 事も仕ないの不都合蛇在ませんか、道人の口癖の様だ
 か其規則中よも在事故横濱市内細民の病者を施療する
 位な事の實行の早々遣て貰いたいが如何でせう乎「左
 様、そうしたいと私も思ひ升、然し今日迄後れたの
 は例の横濱の雜沓が間接に影響したのと、未だ其時季
 が熟せないので在たのでせう」時期の最早宜かろうと思
 ます國會開設の前よも未だ早いくと云て居たが遣て
 見れば先づどうやら出来場様なもので、最早其實行

を遣て貰い度いのですな「左様サ
 夫より市長以下減給問題を咄し始めたるが、氏の意見
 の市長以下減給と其交迭の不可なり、是を無遠慮に評
 せば元來此度のごた／＼の云の、彼れ等が意地の張み
 成た様なものなり、政事上の事柄よ意地を張り出す杯
 の能かるまじ、市長以下をあれ丈減給したら市の爲め
 如何なる利益が在るか、まだ其外よ減すべきもの
 山の様なり、況んや信任缺乏の交迭沙汰をや、彼の市
 長以下如何なる過かある如何なる失かある、余未
 だ會て其過失を知らず、過失なき人々よ向て其信任の
 缺乏せり交迭すべし杯とは實よ奇怪千萬なり、よし彼
 の市長以下反對派の擧たる者よもせよ其職務よ於て
 不都合なく可なり、若し反對派の擧たる者なりとて
 之を忌嫌するとせば彼の實よ就念深き政事家と云うべ
 し、よもや想で在ますまいが扱々面白からぬ話でム
 る、と云のる、様よ聽えたり
 本年製茶輸出の景況の如何と問う、曰、一時の變な様子

なりしが近頃の餘程好況なり、其明細の不日取調て上
 ませうと、早や瀛車の大船よ來り氏の横須賀線と乗替
 らる………甚失敬、左様なら

●其精細なる取調濟の談話甚實業家に利益ある記事あるも紙上の都
 合にて次板へ載へ

●伊藤仁太郎君來らる

或日遊よ來る相變らず強想な可愛らしき顔付で種々な
 話の内、僕此間瀛車の中で藝者の徳江よでつこわした
 處、奴が云よ、旦那が兄さんよ頼んだら能かろうて
 云て居るとが在升が横濱よ五六日來て下さいなど、僕
 の用事が在から断つたが、今考て見ると改進黨新聞の
 藝者の撰擧事件、篋棒メーなんぼ粹狂な僕でも藝者の
 投票で奔走が出来るものか

近頃僕の相馬事件を演て居るが、頗る上景氣何時でも
 大入です、僕の論鋒の世論の逆流よ立て、錦織を三段
 よ論ずる、誠胤公よ對する忠臣無二の錦織、相馬家よ
 對する不忠不義の錦織、一個人と而り下さらぬ錦織と

相馬講談の片の端から中止よ成た、僕も講談最中巡查
 が來て中止を命じた柄、僕の其中止の理由を質問する
 と、豫審よ關する事件だと云う柄、僕の講談の豫審よ
 關せざる事件だと一ト議論して僕丈相馬事件をやつて
 のけたが、其巡查と喧嘩の時の満堂「殺せ」の聲高
 く隨分愉快だつた

●酒井芳兵衛君來らる

坊主の説法と市會の喧嘩とい何れが面白きやとの質問
 よ對する頗る氣の利たる答案「雨あられ雪や氷と隔つ
 れど降れば同じ谷川の水」を持來らる、氏の横濱佛敷
 會の幹事道人もまた其椅子を汚すもの故常よ其交を篤
 ふす、イヤ誠よ芝樂何時も御壯健でと時の挨拶より引
 て時事の談よ移る、氏星亨君を評して曰、實よ滿れば
 缺るの世の習とい云る星さんも氣の毒なもの衆議院の
 議長席までべたが最早其花も散り時よ成たのでせう、
 是を思つても人間に能く成たら尙用心をせねば成ませ
 ん、問、議員よお成よなつて柄御忙しうムいませう

實に寄合だの相談だのなんのかの五月蠅くムと、時よ此間市會の扣席で「無茶久茶書」の事で種々な笑がたまはした中より君を壯士だらうと云た人があつた、私し其時壯士ぢや無い是々の人だと咄した、すると矢野君のそでで、ウー吉永か、それの壯士蛇ない野毛土着の人よ親爺から知て居ると云われたり、して種々なる談話を交る間、流石氏の佛法家だけ大いゝ悟る處ある如く、眼中敵なく味方なきが如き面白き句調あり、終つて大層田沼太右衛門氏を賞らる、氏の歴然たる神黨家

●雨山翁の妙言

太田赤門は遊ぶ雨山てう人の能く佛教演説は老婆を泣かせる妙手あり此人來て暫く四方山の談を結ぶ、語偶々明教社主筆、護法書院の主人咄堂加藤君の事及び、何々なり然し何と、終つて曰く、學者は金持がなく、金持は道徳家がなく、學者は養生家がなく、僧侶は品行家が無いもので藝素ヲト

●木村乙吉君の脚氣談

出版妄評

●横濱沿革誌

舊縣屬 太田久好君編

一名横濱細歴史と稱するも可なり、氏曰、余が青年の頃始めて横濱に來りしより以來真に一意専心廿有餘年の長日月、此書の爲に勤けるなり、記者其引証の古書古文を見る、十幾一室寸隙を餘さざりし、見よ一讀して氏の心勞と膽念の形跡を見よ、殊に其巻中に挿む横濱大古の精圖の如きハ官廳と雖も決して備さざる處、又面白き異様な維新當時巡査の圖繪あり亦實業家を利益する各商館取引商品の案内ありて一巻を坐右に備て裨益尠からず

●横濱貿易青年會會誌

其青年者相寄て此誌を刊す、手始めの運動として居留地二十八番館ツンステール商會が掲出せる不當廣告文を取消したるが如き實に喜ぶべきと又其會の爲めに時事を談し理議を論ず余ハ當に其青年諸君の爲めに喜ぶのみならず又其開業の爲めに喜ぶ不撓不屈愈其強ならんとを切望す

返答を見よ

聞き度ればこそ問ひたるなり、知り度ればこそ聽たるなり、然かも紙上へ表白し、然かも公衆へ發表し、然かも活版に刻成して、伺ひ奉りたる指名質問、決してしようだんの仕事でなく、決してさざけた沙汰も非ず、去れば彼れ堂々たる被質問者ハ、直し其返答を寄すべき等なる中より、未だ何の音沙汰なきものあり、其音沙汰なき理由如何、よもや返答の出來ない筈ハ在

青脊魚を食せざれば脚氣病も罹らぬとの咄の學理上果して然るものか、學理上での其理あるを認めず、本年脚氣の症の善か悪きか、先づ善き症多し、程ヶ谷の病院も設けられるか、今の癩めたり、脚氣病未發の攝生法ありや、無き様なれど監獄囚徒も同病無きより推せば食物は有る様なり、食物の何が能きか、囚徒の通四分六の麥飯なり、轉地療法は土地の善惡あるか、無し甲から乙と換れり宜し、脚氣衝心の咄を聴くも實は身の毛の生立程度し、左様實は氣の毒なものがあつたり、然し脚氣より速く恐ろ敷もの肺病でせう、脚氣の際限があるが肺病の重き死と定つて容易に死なざればト

豫穴 近々出版仕り、諸君の膽ツ玉を轉繰返し奉らんと存る雑誌の表題ハ此穴探 是又御愛看を願ふ 千草道人



ますまいが... 茲も能々御應答ありたる分を略記せば人の思想の異なる事尙ほ人の面の皮の變るが如く、なか／＼面白し

- (問) 僧侶の說法と市會の喧嘩と何れが面白き 酒井芳兵衛君
- (答) 雨あられ雪や氷とへたつれと落れば同じ谷川の水と云ふ
- (評) 流石は、能くも悟られたり善哉々々
- (問) 爾來瓦斯局の盛衰ハ何れの傾か 朝田又七君
- (答) 既に市參事會へ引續たれば當局者へ御尋になる方御便利と存候
- (評) 心の變る尙面の如ければ、君の御意見を伺たので、御親切
- (問) 教科書撰定は委員に私なきか否 田沼太右衛門君
- (答) 未だ撰定委員の設なれば御答致難し
- (評) 是は御尤小生甘じて拜受仕る
- (問) 商人の利便を云ハ損ハ利ハ何れにや 片木八重吉君
- (答) 此答辨を左の諸君に御依頼可申候に御坐候間御承知被成下度云々
- (評) 横濱貿易商組合管理事者諸君及平沼氏に
- (問) 投機商ハ如何なる覺悟を要すか 若尾商店
- (答) 弊店にては夫等の事に經驗無之故御質問に應じ兼候
- (評) 投機商の文字は當季商則今の商人の誤なりし、お門達の質問に返答を煩たる多罪を謝す
- (問) 改進黨敗北の貼札を貼出さしに可なりしか否 皆川廣 齊君
- (答) 何れの時の貼札に可有之か御尋簡略に付瞭解任兼候へ共改進黨員に於て改進黨敗北の貼札など致候者は必らず何れの時にても有之問數儀を存候
- (評) 惡業ヲ、が人噓して云う、夜明に貼て在て夜が明て刺て在た
- (問) 金の儲かり始めは何なりしぞ 茂木保平君
- (答) 貿易なり、然れ共商買は徳義と勤勉とを以信用を組成するを要す
- (評) 左様なりしか、而て未嘗頗其當を得たり蓋し今此志ある人幾人かある
- (問) 他日如何なる業をか創る又今日に安するか 茂木惣兵衛君
- (答) 隨機世變に處せんのみ今茲に未來の企業を語を得ず
- (評) 呼是眞に氣骨男子の言乎、實に然らざる可からず

双木舎痴遊

千草道人足下、今回ハ誠に御丁寧なる、御質問を賜り、且飛んだ御
 肥慮を煩へし恐入候、御原意に酬ひざるも不人情に似たり、依て早速
 答案差上候小生一人にてハ何となく物寂しく候まゝ頼まれもせぬ、
 代理も致し候間、餘計な世話も、お叱りもなく御指圖の程願上候
 ○我身と我心ハ相分り兼候
 ○目下工夫中にて有之候
 ○北海若以來の占易未だ不仕候
 ○ドキ
 ○決して安じ不申候
 ○先づ紳士の服装を工夫致候
 ○大工にて候
 ○大儲けを致し候て止めるに限り候
 ○只今の處にてハヒヤノーに候
 ○將來ますます上進の傾き存候
 ○居られる間ハ精進に候
 ○今まで丈け登りたく候但縣知事となりて責任を
 負ふことハ御免蒙り度候
 ○何とも思ひ不申候
 ○先づ商海の粟と稱さるハ近々の事存候
 ○閑暇の時にハ利益も利益に候
 ○受流して斬込む精神に候
 ○矢張り日本にて修め候又畢世の目的杯ハ豫約すべ
 きものに無之候
 ○義務ありと相考へ申候
 ○一人も無之候
 ○未來に御注目願上候
 ○瓦斯の需要者有之間ハ大丈夫に候
 ○猶なる市會ハ少々困入候名譽を賭して市會に○
 ふ心ハ無之候
 ○際節と味附さ飯と番茶に候
 ○一回五十錢にて候
 ○何ぞも申されず候

- 平沼 藤藏
- 渡邊 福三郎
- 高島 嘉右衛門
- 原 善三郎
- 茂木 惣兵衛
- 田中 平八
- 若尾 幾造
- 大谷 嘉兵衛
- 中野 健明
- 三橋 信方
- 小野 光景
- 木村 利右衛門
- 片木 八重吉
- 鈴木 稻之輔
- 伊藤 仁太郎
- 白井 勝悟
- 戸塚 千太郎
- 來栖 莊兵衛
- 朝田 又七
- 福島 辰次郎
- 早川 覺兵衛
- 川村 三郎
- 田沼 太右衛門

寸評

獄裡の厚薄に偉人の憤慨

縣會議長鈴木其他の面々、高座騷動高橋粗擧の嫌疑で
 獄中ニ沈みし典獄の命ハ非常なる厚遇を受し、元
 來牢獄ハ世界の別天地決て人異職掌又依て其厚薄無き
 等なりと強く怒て近々縣會に於て彈劾する積なりとい
 是を之偉丈夫と云すして何ぞ

横濱地價上騰の原因

横濱の地價頗る上騰して、本町辨天通邊の一年八十
 圓より百圓位、夫でも賣手なしと、其原因ハ、條約改
 正の影響、金融緩慢の成行、地主々々の策畧、相場創
 立の關係と、日原因此四點の内ニ存せん

横濱貿易商紛議尙擾々

横濱の紛紜、尙横濱に仲裁の人なく、漸く川田のお親
 さんを頼んで先づ事濟、何れ兎もあれ喧嘩過ての後の
 祭と、僕ハ無言で居た處、通信社報し來る、又候彼處
 此處で古風くやると、左程迄喧嘩が好どの因果な事

○否々大に奮發すべき事存候
 ○一度半にて候
 ○平沼征伐と稱して致したる時に候
 ○僧侶の説法餘程面白く感じ候
 ○私の外に無之候
 ○ドシ／＼やらかす都合に候
 ○〇〇なる心組にて相待居候
 ○左様の事ハ内々に御尋ね被下度候
 先はあら／＼此の如くに候

- 黒部 與八
- 森田 伊助
- 關 貞吉
- 酒井 芳兵衛
- 西村 喜三郎
- 吉田 恒藏
- 市石 昭高
- 皆川 廣濟

書も涙親兒の薄命

物之欄を知り給ハ、何程にても御惡を
 横濱山田町一丁目六番地裏家ニ住む飯田豊吉(五十五)長女
 とめ(十九)長男鉄太郎(六)の日は一度の粥も噉れず親娘
 二人ハ病氣みて只長男の鉄太郎の途方暮て泣計實
 斷食同様にて三人共今ノ死を俟つ不慮なる有様を實地
 目撃したる社員ハ黙するも忍びず直ニ宮本泰壽氏ハ訴
 へし處直ニ共立病院の施療券を賜り同氏直ニ往診せ
 られたる趣 又居留地繁田氏發超ハ係る横濱救濟會ハ
 急訴したれば必ず應分の御處置ある可れと差向一椀の
 食もなき實ハ惘然なる此境涯を御憫察在て讀者ハ多少
 拘らず御惠あらんとを伏願す
 本社へ御届在ハ直ニ同人ハ届け其受取証として其慈
 善家の氏苗ハ次板紙上へ廣告仕る……詳細なる願
 未ハ次板

驚く可き官吏の賣國奴

信カ偽カ余ハ其鑑定ニ迷ふ、飛來る一怪報、曰某税關
 の雇外國人ハ妾の名義で神奈川縣久良岐郡根岸村字
 不動尊近傍の地を買入る、其周旋ハ某税關の官吏二三
 人ありて其事實を確る書類ありと云人あり(通信社
 報)若果て此行爲ありとせば當局者諸君ハ疾く斷然
 る處置在ベシ

眞金町妓樓の不埒

何樓乎、田舎の金持を娯魔化して瀧錢を貪ラ天罰警
 察署の御灸を蒙る、不埒千萬、不都合至極、障ぬ神ハ
 崇なし、うかく狐ハ摘れ給うな

可惡碧眼奴

毎夜巡査隊を組て伊勢崎町邊を巡り又散て横町立つ
 人疑て曰強盜捕縛加賣淫征伐かど、是ハ之れ碧眼奴
 商品持逃を制する爲めと、商品を持逃さる是商人の馬
 鹿よされる處

毛唐人の無情究るよ

居留地五十五番館にて蒞蒞買其飼犬ハ噉ゆれ、療治代
 を請求して僅々五厘で追拂ハる、此蒞蒞買ハボーイ

呼込れて這入り館主怪み又犬又囀れて此始末に至る五厘どの何ぞ、人を馬鹿にする程こそあれ、若我飼犬彼を噛たる時、彼の五厘の療治料を甘受するか、蓋し其ボーイ若日本人ならば是又一箇の無情漢

●築港の不如未ば幽霊?

口角沫を飛ばして演説壇上を怒號し、憤慨筆を奔して新聞紙上を痛論せし、横濱築港工事の不如未事件、其結果如何なるぞ、其處分如何なるぞ、嗟今の士、幽霊か、嗟今の世の妖界か

●分割復舊事務所

三多摩の自由黨員の復舊を就念深く今尙事務所を設けて運動するのと、彼の舊廳を慕ふ何故ぞ、彼の新府を厭ふ何故ぞ、縣を慕ひ府を厭ひ、市を慕ひ都を厭ふ、其甘苦其愛憎那邊あるか

●築港益々不始末?

起工前當局者間議論ありし築港入口八百尺論、今日既其狹隘を感じり、今又して亦何をか云ん、官問ふ當局者の眼孔敏なりしのも誰ぞ

●生糸賣買の悪弊

横濱の生糸商人中貪欲外漢と投機的賣買をなし結局品渡しと決する時の粗悪極まる品物を買ひ集め平氣で授

御保護も厚薄有之儀や冀へ爾後日夜數回市内全般況く巡官の御巡視相成候様致度存候儘如斯御坐候敬具

●金光教會の寒評

寒評とて縮屋で遣う計でなし、彼讀で心膽を寒からしめ、彼見て總身冷汗を流し、ブーツとして氷で臍を冷すの思あらしむる御馳走、甘からぬ辛煮の寒評も勢ひ一本呈せざるを得ず、聞く金光の教の耶楚去れ佛歸れと眼中只一箇神道の外一物なく、神道の内にも踏地の恩を至要なりと、勢ひ馬車の目隠馬の如く無二無三只だ一方之走り手前味喰ひ辛しと他を省みざるもの如しと、云人あり、若然ず其神官宜敷辨明せよ

●早く此義旗を横濱に翻せ

演説の當り物の、條約改正も、内閣攻撃、降つて平沼攻撃等は近頃上々の當物、是より次に到る所最も景氣ある、星背徳事件は相馬騷動なり、此愛う可き醜聞の奇怪な所を影響して頗る演説家の爲なりしと、辨士の多き中、御陰の冷やかなる懷中を温め欣々然として陰か金函を拾ひたるが如く喜び居る者ありとの風説もありしが、爲にか否や、東京青年演説者の相謀つて、絶大の義氣を吐く、曰く相馬事件の演説より必ず錦織を助く可し、又其傍聴料の諸入費を引去りたる殘餘の同氏へ義捐するとも識一定したりと、又何ぞ此

受をなすものありと、此報若し信ならば組合せれば眠れるのみ、生糸の前途亦憂ふべきなり

●京濱娘の風俗

よせぎれの浴衣流行し其身分は從ひて幽禪あり縮あり木綿あり又娼妓の風令嬢は遷りてやごま大い流行すサテモ物好きな奇風かな

●横濱警察へ一本参る「風聞は依て」

是千慮の一失乎、此敏腕なる警察の下、此横濱市内は近頃強盜の難い遇ふもの毎夜十の下は降らずと、是横濱警察千慮の一失乎、蓋し巡査の巡回は一定の線路に在て其線路の外に到らざるも責なしと、其線路の僅々たる場所にて其外市街甚多く、或箇所の如き月長の長き未だ曾て巡査の影を見しとなしと、「此邊最も盜難い罹る」、彼も是も同等なる市民なれば從て同等なる保護を與えられよ、殊も今日の如き悪奸の徘徊頻なる時、一層日夜數回の巡行を切望す、道人の市民の爲め既に左の一書を市石横濱警察署長に送る、君早く吾意を容れて其實を學給ひ、幸甚

近頃市内各所にて強盜の難い罹る者不埒との噂果して噂の如く候へば充分閣下の御配慮を煩し度儀も御坐候、次は承候へば査官巡回の場所の既其線路一定して其他所へ一切巡視相成ざる趣果して然らば其線路の人民と未線路の人民との何の爲め斯く

横濱此義氣を吐かざる手、道人の實も其至當を感賞して止まず

- 前日出板 ●無茶久茶書(既成) ●照魔鏡
- 不日出板 ●穴探 ●分析
- 遠約謝罪、大谷嘉兵衛君へ大塚成吉君へ長尾雨山君へ古尾谷破戒君へ
- 徳義會の、當時會員募集、不日出板、其相談會を、其時は是非來れ
- 入會あれ、若も善を愛して惡を惡む人ハ、其規則御一讀、是非協賛を給
- 其規則ハ、前版「無茶久茶書」にある、尙御望の向は呈すに依て
- 御一報を、千草道人の樂書、毎月二回筆搦物を、愛顧在は左表に依て
- 商家評判、記事山の如き爲に次に譲る、願ふ處ハ讀者の御筆勞をも
- 出版運送、道人病氣なりし故に、筆取る能はざりし故に、甚速運
- 横濱出板、道人も横濱で生れたるもの、願ハ其土地子相寄て一遊せん、居所氏苗を知せよ……早く……

人道草千 見て

●無茶久茶書(既成)	●照魔鏡
●穴探	●分析
●氣付藥	●解剖刀
●ヤツ、ケロー	●目ざまし

出版八月に二冊、閑在たら三四冊も書ませし

發行日ハ定め難し、願くば前以御注文を、御注文ハ前金一冊五錢の例、前金者及前預約者へは早く配達す

投書ハ何でも御勝手なり、よき者にては與つて出で進す

横濱野毛町二丁目四番地 千草園社

毎冊横濱市内公民諸君へ宛持參候間御入用なれば御求を又御不用なれば無御遠慮御戻を、強て買て戴かんと云ふ非強て讀で載さ度候也

若し次出版書、廣告御望の向ハ早々御申込られ餘白塞ちば斷然謝断す

驚く可き新藥劑

製氏浦松

痔の藥

●有効を保証す
 ●小包...三拾五錢
 ●中包...六拾五錢
 ●大包...壹圓

此藥劑の實は松浦家祖先よりの秘藥にして非凡藥也
 いかなる難痔之を用ゆれば忽ち治る
 いかなる痛も一付つけばすく止ると請合
 いかなる出痔も二三度付ればすく治ると請合
 早く試よ大包えり「無効返金証書」添る

奇麗奇 ●田虫がん瘡一と付藥
 小十錢 大廿錢

中風の妙藥

此妙藥の永く實驗したる本會の秘藥としていかなる中
 氣よりも一廻より三廻の内は治す數年の大患者もても
 七廻より十無効の時金すへしと云う証書を添へ
 廻を用ひて無効の返金を保証する無類の藥品也
 横濱野毛町二丁目

當分專賣 タイガー商會
 電話百七十九番

電話端書みて御注文われ直も持參す、此三藥の當分市
 中藥店へ差出さす候

壹千部限特別新大珍書發賣廣告

樞密顧問官正三位勳一等伯爵島宗則君題字
 貴族院議員從三位勳三等宮本小一君校并序
 元外務省外交編輯掛數六等坂田踏邊君校并序
 元神奈川縣屬太田久好君編纂

横濱沿革誌

總クロロス大形裝裝大冊
 人物圖畫精工美至妙を盡した
 る大正諸總て五葉を挿入す

全壹卷
 定價金壹圓
 一五拾錢初版
 特別千部限
 一壹千部三拾錢
 國一壹千部三拾錢
 無透限金
 料全

横濱開港の沿革を知るの外に必要の事なり、朝野の士永く之を尋
 ねるも事蹟茫々不明なる、開國歴史の一缺として彼等の常に浩嘆を
 し、年々大空明始十四年に至る三十三年間の間を詳解して細大漏さず
 緻密に列挙し、宮本坂田兩君の懇篤なる註記を添へて茲に始めて
 卷を終り、著者「此書の探求、實に二十有餘年の刻苦に成ると、其
 精至難なる形跡、顯然として一讀の下に存す、見よ、其文藝の麗麗なる
 あり、其外生夢の事件、外交の談判、貿易の約束、ハルリの古事、諸
 第會社の成立、地形の變遷、風俗の模倣、舊家の系統、郵便電信瓦斯水道
 成立より引つて現在の車軌に至る迄周到に詳述する、殊に横濱大古中
 現在の細部の如きは、官廳と雖も能はざる、一讀せよ、其細部に驚か
 るに開港當時の古今諸事諸人諸百姓名より現今商賈名家の細記の如
 き、居居地帯の古蹟の如きに至つて、管に其細部に驚か
 らず、實業上好媒介の要機となる、早く一讀せよ、疾く愛求あれ、横濱
 市長、此書に來る、其書に、横濱の紳商、此書の完成に先づつて
 市長、此書に來る、其書に、横濱の紳商、此書の完成に先づつて
 横濱の大報なり、諸君、此書に來る、其書に、横濱の紳商、此書の完成に先づつて
 横濱の大報なり、諸君、此書に來る、其書に、横濱の紳商、此書の完成に先づつて
 横濱の大報なり、諸君、此書に來る、其書に、横濱の紳商、此書の完成に先づつて

發行所 太田邸
 該書は數部横濱野毛町千草園雜誌を預け置候間、御覽の向へ同園にて
 お求め被下度候、御申越同時直に持參す、千草園

世界第一等ノ滋養食料品



アロイロイトの獨逸國化學博士「ドクトル、フンドハウス」氏の創製に係る專賣品として近世の發
 明品中最も著名の製品なり我國衛生試驗所の檢定も依るも人類の食物中最も多量の消化性蛋白を含有し
 アロイロイトの牛乳に勝る事拾五倍餘量一匁は大の鶏卵
 四個と同量養分あり故又身體の健康なるも否も係らず一日も缺可らざる食料なり
 アロイロイトを常に食用すれば血液・筋肉・腦・神經等の諸組織を構成するが故に●小兒の發育
 ●身體の薄弱なる人●過度に精神を勞する人●婦人産前産後●記憶力の弱き人●忍耐力の乏しき人●氣
 ●力減乏●貧血諸症●諸病の衰弱●過淫より來る衰弱●諸出血より來る衰弱●其他此の食料の極め
 て消化し易きが故に殊に肺病胃病の患者より最も適當の食料なり

價定

七合分 拾五錢
 一升五合分 廿八錢
 三升分 四拾五錢
 六升分 八拾錢

日本一手輸入發賣元
 關東代理店
 大坂高麗橋二丁目 松下善四郎
 横濱境町一丁目 森上商店
 賣捌所ハ東京横濱ハ勿論全國到ル處ノ藥舖及洋酒洋物店ニアリ

今回野舎儀常港太田町二丁目廿五番地よ於て

●和洋活版 ●製本對引

●石版 ●銅版 ●英翻譯

●無料燈籠 ●點燈 ●點火料

良友舎

横濱太田町二丁目廿五番地

●無料燈籠 ●點燈 ●點火料

●每夜點火 ●點燈 ●點火料

●點燈 ●點火料

●點燈 ●點火料

●點火料 ●點燈 ●點火料

●點燈 ●點火料

●點燈 ●點火料

●點燈 ●點火料



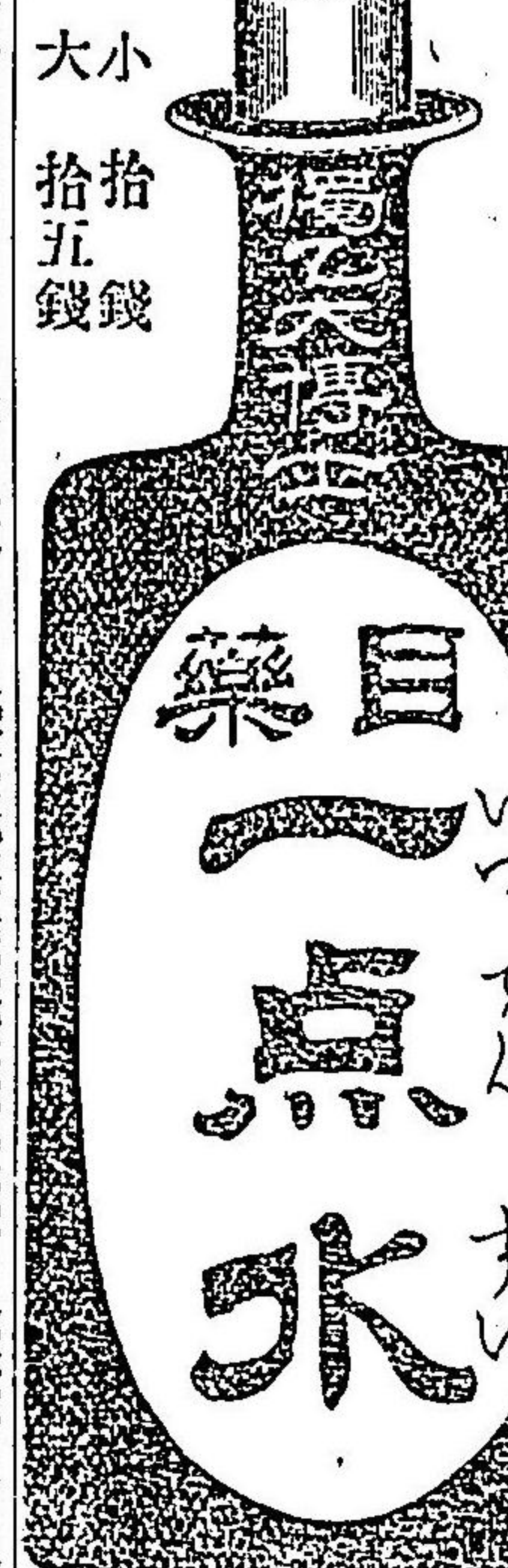
瑞西國アル、シミツ商會
製造にして當商會特約販
賣の軍人馬印金銀時計は
全國製造中第一等の良品
として鳳に江湖諸産の大
喝采を博したる者なり品
質体裁等注意に注意を加



へ價値最も廉なるにも不
拘器械
の堅牢時間の正しきは需
産か既に熟知せらるる所
に於て改良を加へずして
亦増々改良を加へずして
に於て品質の上下を不
上其結果完全なる者
のみを擇ひ輸出する
の難も時間の變動を
來すが如き憂ひをか
ばらざる處に御坐候
懇切に全時計店に於て
荷致し全時計店に於て
居候間御時計店に於て
店に御購求の程伏て奉
附言近時他に似寄の商
のCH並に軍人馬の商標
用の程偏に奉懇望候
日本一手 横濱九十五番
販賣店 横濱野毛町三丁目
電話二百三十番

河北直藏

獨逸眼科専門大博士スワイゲル氏目藥



●拾年の眼病壹瓶にて全治せり
●其治人は兵庫縣津名郡鹽山村役場赤井一君なり
●到處藥店あり「ダイガ」商會の目藥」と御尋御求を



●衰弱疲勞 ●胸腹鳴痛 ●食慾減損 ●胸腹苦痛 ●疲肉醜色 ●飲食滯停 ●身體倦怠 ●嘔吐頭痛 ●宿飲吞酸 ●吐不消物

●其の重きも一廻より三
●廻りも七廻りも保証す
●無効返金添書
●胃病の人早く試み見よ
●有効贈献來り始む來見よ同
●名藥あり會名御注意

●(藥病宮子) ●日本歐毒病院開祖英國ドクトル、ヒル氏原法綿藥
●此綿藥は五年十年の頑固なる子宮病を
●も治す無類の新藥として常々之を少々
●宛用ふれば子宮病の勿論梅毒の感染す
●る憂なく腰 暖 氣ぶん晴々として子
●なき婦人の子を孕み腔中清浄として此
●上なき心持なり ●白血 ●なが血 ●陰臭
●消渴 ●糜爛 ●産前産後 ●月經 ●氣鬱をすぐ治す

●御求の諸君 御便利
●本會藥品の市中に勿論全國到處藥店
●も差出あるが、尙御便利の爲め
●電話又ははがきにて御注文あれ直
●持参仕可候
●はがきにて御注文あれ直
●可仕候
●本舖 横濱野毛町三丁目
●電話 一三三三番

注意

此度滋強丸に類似の偽名と効能を付したる偽物へ最も諸君に必要なる(無効返金の約束)及び「保証証(有効証)」の證據なし
實に効能急激即効の西洋藥へ此一藥の外斷じて無し諸君必ず活目注意して「にせ物」の奸策に掛る勿れ

●無病の人用ゆれば眼前に靈妙なる不思議顯る試よ

米(醫)ト(ン)ロ(グ)氏藥



- 腦病一切
- 氣鬱諸病
- 遺精
- 記臆減弱
- 手淫諸害
- 腎虛
- 陰莖萎衰
- 心經不能
- 老衰
- 貧血諸病
- 面貌醜色
- 貧血
- 陽物無力
- 疲勞虛弱
- 病後

有効禮狀に見て來れ

殊無病の人 毎夜少量を服せしむるに奇絶快絶不可思議なる樂を感じず

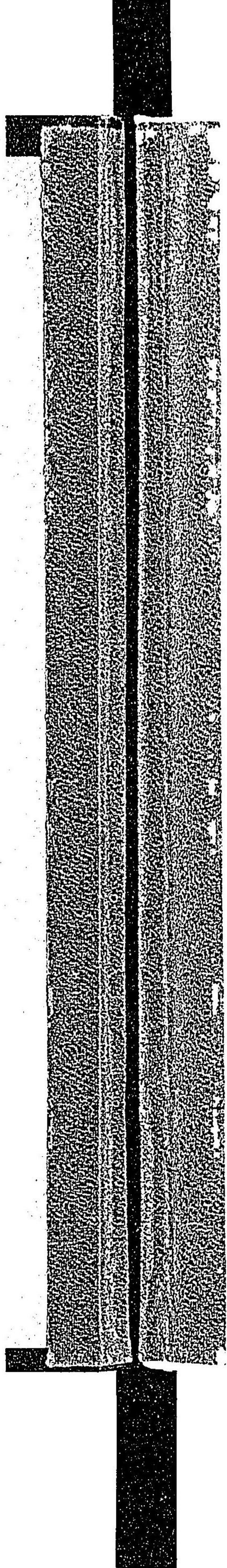
● 確證
早く試て見よ 其重きも一廻々三廻で 治す數年の大患も七廻で 必ず保證七廻無効返金證添

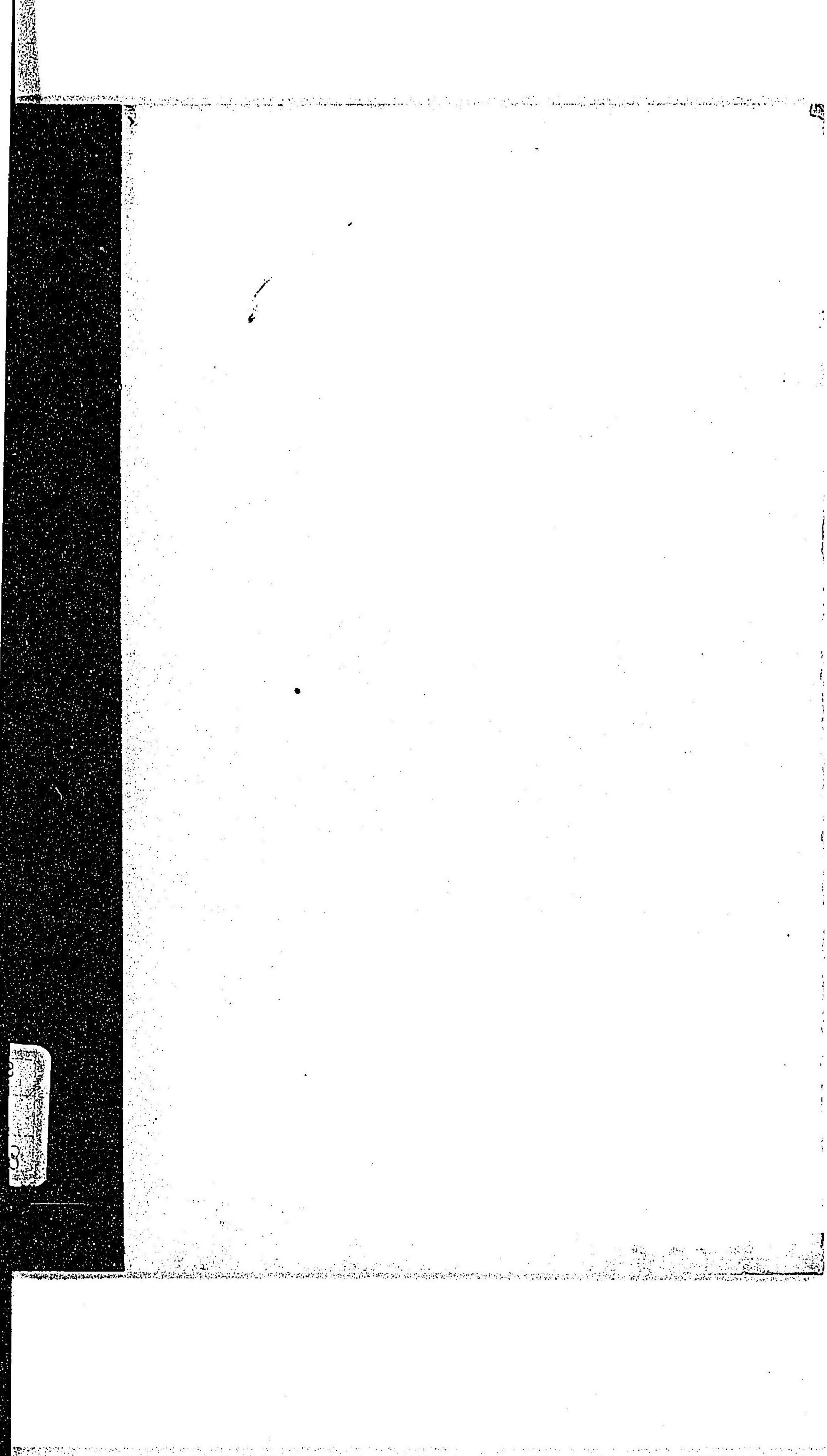
● 各新聞
此効能の紙上及服用者の唱導よ 充分足れり故に敢て 喋々せず

● 五時間後
飲と 若効能疑ハ、來テ確實證據ヲ見ヨ 効能急激ニ寸害無ハ、是本劑ノ特色 近頃偽物續々顯ル活目用心要注意

本舖... 横濱野毛町二丁目 (電話一七九番) タイガー商会

京濱間の本舖へ御申越あしは直に持參す 地方の前金着同時郵送す 尤も全國到處藥店で賣捌く





横濱時
事漫評 出放題

千草道人

国立国会図書館

102393-000-9

特48-768

出放題

千草 道人/著

M26

EAG-0254



